

# 2000年冬合宿報告書

蓮華 遥かなり……



SAC

信州大学山岳会

巻頭に寄せて…

冬合宿は計画では実動 11 日の予備 6 日だった。しかし終わってみれば実動 7 日の沈殿 9 日半に終わった。実動を沈殿が上回ったのは個人山行を入れても今回がはじめてであった。内、今回は連続 6 日半沈殿をした。しかも新世紀早々の寝正月である。ある意味記念的な出来事だったといえよう。「この 21 世紀のはじめ何してた？」なんて将来聞かれて「山でひたすら寝ていた。」なんてやつは他にそういないんじゃないだろうか。6 沈の中思ったのは山の沈殿というのはつくづく特殊な環境であるということだった。狭い空間に代わり映えのしない面子。娯楽といえばトランプ、ラジオと 3 度の飯くらいだ。さらに特筆すべきはその行動範囲で嵐がひどいときなどはほんの用便を除けば立つて歩くことすらない。普段の生活で同じことをやれといわれてもこれはなかなかできない。

今回のようにとくに登山の行為として激しさはなくとも嵐に閉じ込められ自然の脅威を身をもって体験するだけで下山後の満足感には大きなものがある。いつもはなんとも思わない太陽の光 1 つに、暖かい住まいに素直に喜べる自分がそこにいる。

そんな心を洗いなおしてくれる登山はすばらしい。 近頃つくづくそう思う。

岸本

## 目次

- ・行動記録
- ・気象記録
- ・係りの反省
- ・個人の反省・感想
- ・イラストコーナー
- ・編集後記

## 行動記録

12月23日 3:45 松本発～6:30 打保着～7:40 出発～11:42 水の平TS～1840m

晴れ まで荷揚げ～14:30 荷揚げ終了帰着

冬合宿初日。登り口付近の雪は少なかった。見上げる山も下部は黒々している。相当のラッセルを覚悟していただいただけにホッとしたような物足りないような。それでも1,2時間歩けば雪は出てきて重荷に加えて思った以上に先には進めなかった。荷揚げを終えて戻ると法政の別働隊がさらに重そうな荷物を担いであがってきた。法政大とはこの後3日間行動を共にした。

記録ノートより…

「みんなの屈がくさすぎる。」

「いやあ～、荷物重いなあ～。肩いてえ。腰いてえ。最悪だ。それにしても吾郎にホモ気があったとは…。」

12月24日 5:00 起床～6:50 出発～8:00 デポ地～13:00 避難小屋～荷揚げ～10  
曇りのち雪 :00 帰着

天気はあまりよくなかった。避難小屋を目指して黙々とラッセル。途中雪面から3～4m上にある枝に赤布が巻かれている所がいくつかありこの地の豪雪振りをうかがわせていた。法政大には申し訳ないが避難小屋は先についた我々が使わせてもらった。偵察をかねて荷揚げを行うがひたすら緩やかな雪面がつづく。春にはすばらしい山スキーのグレンデとなるのがうなずける。小屋に戻ると法政大も到着。相変わらず荷物が痛々しいほどに重そうだ。クリスマスイブのこの日は持ってきたケーキを法政大のメンバーも交えて男だけでつついた。双方の交流もできて楽しい一夜であった。

ノートより…

「恐るべしコーチ会。“おまえらもいっしょに出発しろ。”この一言で法政は8+14らしい。あー非情。」

「法政楽しかった。でも怖がられた。」

12月25日 5:00 起床～6:30 沈殿決定

吹雪

クリスマス寒波到来。朝から大雪。トランプ、読書…ひたすら沈殿に走る。中でも麦谷さんから頂いたエ〇本が大人気でみんな食い入るように見入っていた。その為かこの日のノートはみな性欲が一気に放出された若さほとぼしる性欲帳のようなものになってしまいとても報告書には載せられない。そんな我々の荒い鼻息混じりのコーフンをよそに雪はとめどなくしんしんと降り続いた。

12月26日 5:00起床～沈殿～デポ回収

吹雪

二つ玉低気圧到来。寒気団の中心はマイナス30度とのこと。飛騨地方は警報注意報だらけだった。北ノ俣越えは確実な1日の青天が必要。望み薄のこの日も早々沈殿。予備食を余計にデポしてしまい回収隊を出した。日中晴れ間が見えたが程なく荒れ模様となり、教科書どおりの擬似青天だった。

12月27日 5:00起床～7:20出発～8:30デポ地～10:30北ノ俣岳～13:30黒部五郎手  
晴れ 前のコルTS～カールとの分岐まで荷揚げ～15:30帰着

朝方は視界が悪かったが気圧の尾根の到来、天気図から回復に向かうと判断して行動。案の定1～2時間ほどすると太陽が雲の切れ間から顔を除かせ北ノ俣の山頂では槍方面の絶景に迎えられた。あわよくば黒部五郎を超えるつもりであったが重荷と北ノ俣からのラッセルに時間を取られ黒部五郎への登りの始まる手前のコルで打ち止め、荷揚げをするにとどまった。黒部五郎の登りに入るまで一度もアイゼンは出なかった。

ノートより…

「小屋のよさをしみじみ感じるテント生活。」

「久々に動く。荷物が重い。景色が絶景！それにしても実動日の食糧は充実している。」

12月28日 5:30起床～10:00沈殿決定～沈殿

吹雪

前夜のミーティングが長引き朝寝坊。よって不覚にも高層は取れず。外は視界10mのホワイトアウト。とりあえず小便がてら織田裕二の真似をする。10:00まで待機するが天候は回復せず沈殿。佐藤、日高の風邪が以外にひどいことが発覚。休養に努めてもらった

12月29日 5:00起床～6:50種発～8:20デポ地(夏の分岐)～11:30黒部五郎小屋～荷揚  
快晴 げ(2600mまで)～14:45帰着

朝のうち黒部五郎山頂前後は風邪が強く濃い雪煙に巻かれることしばしばであったが日がたつにつれ風もやみ小屋に着く頃にはヤッケが暑いくらいだった。黒部五郎の稜線は板状の大きな岩が折り重なっていて冬はその上に積もった雪を踏み抜くと足がはまって非情に痛い。時折現れる斜面の通過に気をつければとくに危険な個所はないがアイゼンだと膝上くらいのラッセルとなりなかなか面倒くさい。午後のエクササイズとして恒例となったラッセルと荷揚げをこの日も行う。黒部五郎小屋は快適。この日辺りから年末年始の荒天が濃厚となり夜のミーティングは荒天を見越しての明日以降の行動をどうするかで長引いた。鷺羽の先まで足を伸ばすか、三俣山荘前で泊まるかで迷ったが幕営地を上げて嵐につかまった場合のリスクを警戒して30日は三俣山荘前となった。

ノートより

「今日で早いもので7日目。1週間。早いものだ。7日目ともなるとみんなそろそろ“あれ食べたい。これ食べたい。”と言い出す頃である。かく言う私も、お好み焼き、焼肉、すし、かに、などなど食いた一い。以上食欲。今朝の夢はよかった。馬泥棒の姉妹と××××といった感じ。夢はいい。以上性欲。」

12月30日 5:00起床~7:10出発~9:10三俣蓮華岳~11:00小屋着

晴れのち曇り

前日の予定通り悪天を見越して三俣どまり。前日のラッセルのかいあって行動はあっけなく終了。埋まりかけの冬季小屋を見つけるが非情に狭く中は雪で半分ほど埋まっております。テントを張る。空はどんよりと不吉な色だった。佐藤の風邪が以前治らずこの日は36.8℃の熱を出した。大量のビタミン剤を与えひたすら養生させる。夜になっても空はどんよりしたままで天候の崩れは緩やかだった。百瀬先生から頂いたイカ墨せんべいを食べるが真っ黒な外見からは想像もできない美味なものであった。ごちそうさまです。

12月31日 沈殿

吹雪

天気崩れはそれほどでもなかった。視界は悪いが風もとりわけ強いというわけではなかった。しかし天気図からは嵐の到来は明らかであり局地的な判断で動くわけにはいかなかった。佐藤はだいたい復調したようで一安心。トランプが一組しかなくひまな五人テントでは日高の提案で紙将棋を作った。試作品はあまりに駒が軽くかつ小さく完成後の第一戦中、シャーペンの先で駒を動かすこと20分、岸本の三六桂の直後鼻息により駒が吹き飛び流局。一堂大爆笑。厚紙で作った2号品は上出来であった。夜はラジオから流れる紅白に耳を傾け過ごした。天気図からは冬型の長期化がただただ伺えた。

1月1日 沈殿

吹雪

最強三つ玉低気圧の到来。沈殿。天気は悪かったが天気図から想像するほどには荒れなかった。まだ寒気の流入がそれ程でもなかったのだろうか。新世紀早々寝正月。御屠蘇に最後の酒「七笑大吟醸」(中ビン)をみんなで9等分して飲んだ。

1月2日 5:00起床~8:00沈殿

吹雪強し

昨日の外の具合から今日も同じ冬型ならば天気図に目立った変化がなければ先を考え、て歩こうということになり前夜のミーティングではやる気あふれる行動計画が決定した。

しかしこの日はそんな思惑をあざ笑うかのように朝から暴風雪。またしても沈殿。途中五人テントのポールが1箇所破断。修理を行う。夜のミーティングでは長期化する強烈な冬型に備え次の日から食い延ばしをはじめることにした。

ノートより…

「**「またもや沈殿。も一級いいかげんにしてくれ！食料がだんだん減ってきた。当然食べられる量も少なくなった。クスン。」**

1月3日 6:00 五人テント崩壊～雪洞掘り～10:00 断念。小屋を開け避難。～12:00 吹雪強し 移動完了。朝飯を食う。

五人テントが早朝暴風により破壊される。花谷、岸本で外に出てみると3本のポールがすべて折れ、ゴムのとんだ何本かがテントの周りに散乱している状態で修復は不可能。3分で顔面が氷だらけになる吹雪の中とりあえず二人で小屋の裏手の吹き溜まりに雪洞の作成を試みる。どこも積雪に乏しく出てくる這い松をのこぎりでカットしながらなんとか五人が寝られるものをこしらえるが、いかんせん天井は薄く低いものだった。現実的に1日以上の使用には耐えられそうにない。後から応援に駆けつけた日高によれば4人テントも危ういという。狭い雪洞の中、誰もが言い出しにくいことを日高が提案してくれて小屋の裏手にあるくぎ止めだけで開けやすそうな岡山大の夏季診療所を同時進行で開けることにした。しばらくして開いたとの知らせを受け急ぎ逃げるように移動した。小屋の中は雪の吹き込みが激しく除雪を行う。閉鎖時は倉庫代わりになっているようだ。作業終了後遅い朝飯を食べる。食い延ばしのため一人インスタントラーメン半分と少ないが全員落ち着きホッと一息。外は相変わらず地鳴りのような風が吹き荒れていた。

ノートより…

「**「小屋はいい。少なくとも天井が飛んでったりしないから。」**

「**「シヨンポリ初体験。あまりいいものではない。小便冷えたら意外とおいしく飲めそうである。」**

1月4日 沈殿

吹雪強し

地鳴りのような風には外の様子見すらはばかれた。ラジオの予報はどこも大雪情報ばかり。盛大な寒気団が到来しているとのこと。小屋の中だというのにやたらと寒い。エッセン中でも鼻で息を吸うと鼻毛がたちまち凍りつくほどだった。

1月5日 沈殿

吹雪強し

以前冬型強し。沈殿。入り口近辺の背丈以上に吹き積もった雪をかき、あまりに寒いので

で狭いながらもテントをつるして中に入るなど環境改善を図る。この日の予報では6日の夜から7日の日中と短いながらも冬型は緩むとのことだった。短いながらもチャンスは巡ってきた。しかし富山・岐阜飛騨地方は夕方まで風雪の予報で16時の地上天気図では冬型を打ち破るような好材料は見当たらずミーティングでは翌日の行動は日の入り前に水晶小屋の先の危険地帯を抜けられる11時発を一応の待機限度とし、6日早朝の高層次第の微妙な結論となった。野口五郎の避難小屋に泊まるか竹村新道に入り樹林帯の安全圏まで下るかは当日の状況によって決めることにした。

ノートより…

「そういえばまだ初日の出を拝んでいない。おとといから日のない小屋の中で暮らしている。早く動きたい。それにしても髪の毛が鏡のように抜ける。下界に帰れるだろうか。ハゲにならないだろうか。少しMッパゲっぽくなってきた気がする。恐ろしい。」

1月6日 5:00 起床～待機～9:30 諦め掛ける～11:30 晴れ間が見え行動に決定～12:45 吹雪のち 出発～14:40 鷲羽岳～16:30 水晶小屋下の Fix 通過～20:45 野口五郎小屋着

朝のうちは相変わらず。気圧の尾根の通過でよくはなるはずだが、やっぱり夜にならないと回復しないのか…。10時前に諦め7沈目が濃厚になる。がしかし11時過ぎ外に出ると明るい。しばらくすると太陽と青空が少しずつ広がっている。野口五郎小屋を目標に急遽行動を決定。慌しく撤収。小屋の戸を打ち直して出発。鷲羽山頂で現役留守の川井さんに携帯で現状を伝える。電話の様子ではこちらが思っているほど心配していないようであったが後で聞くと下もそろそろ動き始める頃だったという。先を急ぐ。風はこの区間ずっと強い。あれだけの降雪の後でも雪はほとんどついていなかった。水晶の冬季小屋は開け破られており、切れたテントの張り綱など戦いの後が見られた。そこからのくぐりは東沢側にきれ落ちた雪壁をトラバースするところで20メートルほどFixを張る。東沢乗越で暗くなりライトを装着。しかし月明かりのおかげでライトはつけなくとも十分歩けた。野口五郎へ向かう稜線は危険個所はとくにない。ただ風が強く時折吹き付ける突風に軽く飛ばされることしばしばであった。途中真砂岳から突如、日高の視力がほとんどなくなり肝を冷やしたが肩を抱え介助をしながらなんとか小屋へたどり着いた。原因は不明であるが日高の高所に弱いのと目があまりよくないことから疲労から来る高度障害の1つではないかと考えられる。小屋に着いてもしばらくは明暗の判別程度しか視力はなかったが翌朝には回復した。7日ぶりの行動はさすがに応えたのかみんな疲れていた。

ノートより…

「ただ今夜中の1時。20時間起きてます。明日は5時起きがんばって起きよう。明日は松本だ。去年とは違う意味で壮絶だった今年の冬合宿も万々歳で終わりそうな予感。10

沈もしたんだから今年はいいことづくしなんだろうなあ。」

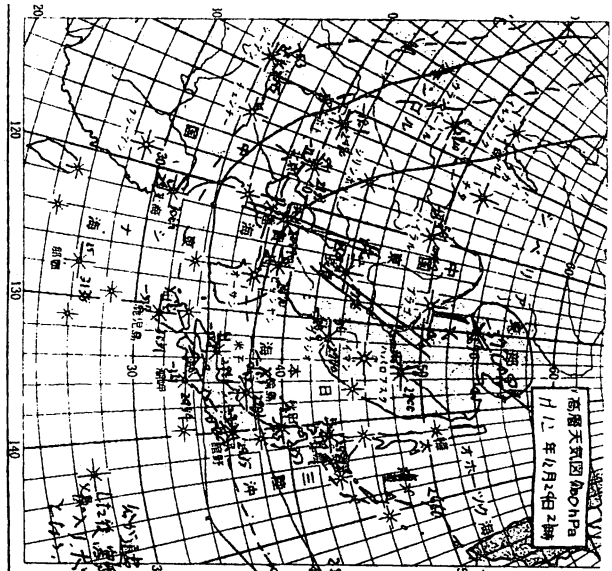
1月7日 5:00起床～7:05出発～10:30烏帽子小屋～15:00ブナ立て尾根基部～17:30  
晴れのち雪 葛温泉

朝は雲海の中、御来光に恵まれる。みんな手を合わせ思い思いの一年のお祈りをする。西の空は早くもどんよりしてこの天気も先が短いことがうかがえた。烏帽子小屋手前まで昨日にひきつづき雪はほとんど吹き飛んでいてスイスイと進む。ブナ立て尾根に入ってから一気に雪の量は増え腿までのラッセル。所々傾斜の強いところは雪崩の危険を感じさせた。下部の尾根が斜面に吸収されるところで道を見失う。迷いながらも急な樹林を強引に下り尾根の基部に出た。そこから始まる林道歩きは長かったが安全圏に降りられた安心感からか足取りは軽く、今夜は何を食べるかなど会話が弾む。仰ぎ見れば稜線は早くも雲に隠れ昨日無理をしてでも行動したのは正解であった。葛温泉に着く頃には真っ暗となり雪も本格的に降り始めた。温泉には足の怪我で合宿にいけなかった大木が連絡もしていないのに待っていてくれて粹な計らいにみな涙が出そうなほど喜んだ。真っ暗の中、会歌「春寂寥」を熱唱。合宿を締めくくった。



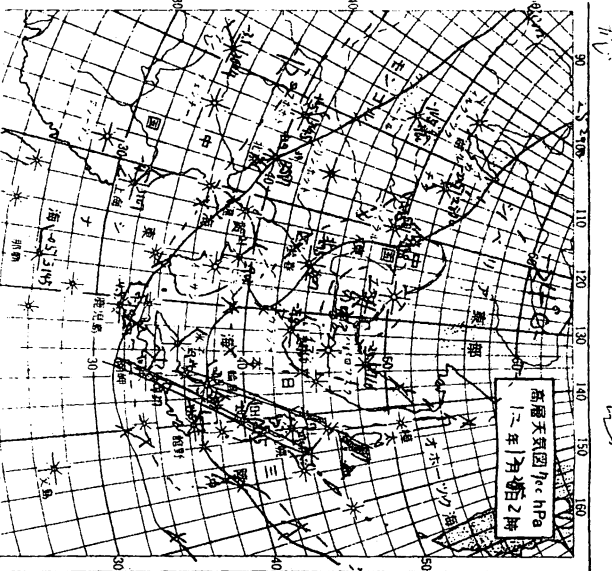






記号

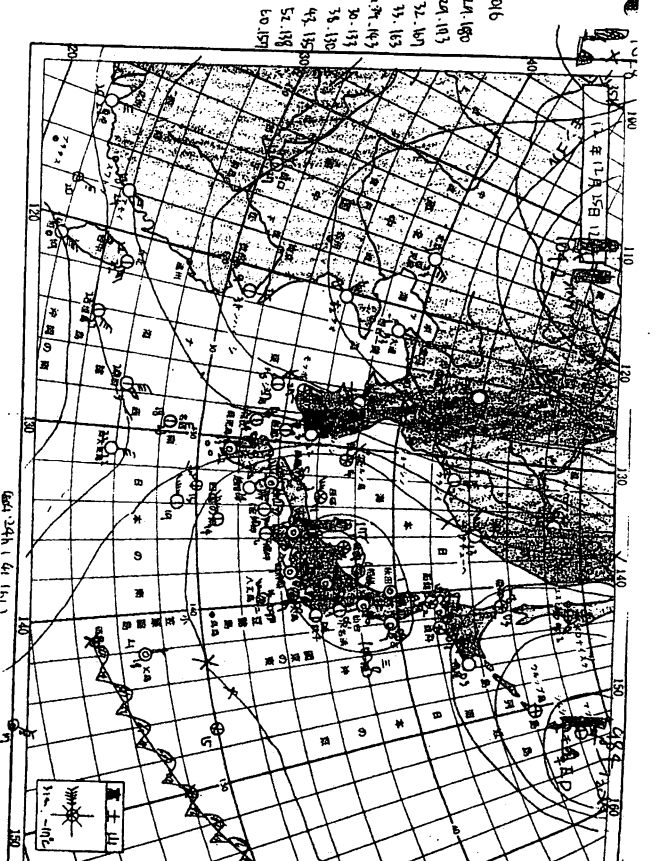
770hPa	5.9, 13.0
760hPa	-3.9, 2.1
750hPa	-6.7
747hPa	4.1, 11.4
745hPa	3.7, 13.5
742hPa	3.4, 14.1
740hPa	3.4, 14.5
738hPa	3.5, 11.3
735hPa	3.5, 10.7
730hPa	4.1, 11.6
720hPa	5.1, 15.7
715hPa	4.6, 14.1
713hPa	3.9, 12.3
710hPa	3.5, 14.8
708hPa	3.8, 17.8
705hPa	3.8, 11.8
700hPa	4.1, 10.2
695hPa	-1.9, 1.5
690hPa	4.6, 17.0
685hPa	5.1, 15.7
680hPa	4.6, 14.1
675hPa	3.9, 12.3
670hPa	3.5, 14.8
665hPa	3.8, 17.8
660hPa	3.8, 11.8
655hPa	4.1, 10.2
650hPa	-1.9, 1.5
645hPa	4.6, 17.0
640hPa	5.1, 15.7
635hPa	4.6, 14.1
630hPa	3.9, 12.3
625hPa	3.5, 14.8
620hPa	3.8, 17.8
615hPa	3.8, 11.8
610hPa	4.1, 10.2



記号

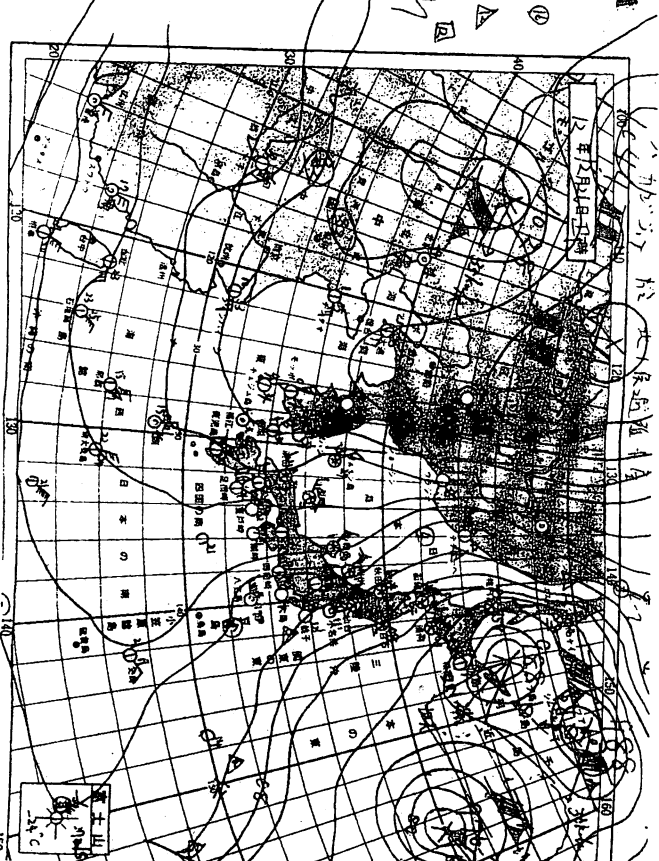
780hPa	3.0, 11.4
775hPa	4.0, 11.6
770hPa	3.8, 12.1
765hPa	3.4, 12.7
760hPa	3.4, 14.4
755hPa	3.7, 14.5
750hPa	-1.2, 1.6
745hPa	4.0, 1.1
740hPa	3.1, 11.7
735hPa	3.1, 12.2
730hPa	3.3, 12.4
725hPa	3.3, 14.4
720hPa	3.8, 14.5
715hPa	4.2, 15.1
710hPa	5.1, 17.8
705hPa	5.1, 17.8

11.1 至 11.2 日 2時  
高麗天氣圖  
11.1 至 11.2 日 2時



記号

816hPa	2.1, 14.0
813hPa	2.1, 14.7
810hPa	3.1, 13.3
807hPa	2.9, 14.3
804hPa	3.0, 13.3
801hPa	3.8, 13.0
798hPa	4.3, 15.0
795hPa	5.2, 18.8
792hPa	5.0, 19.1



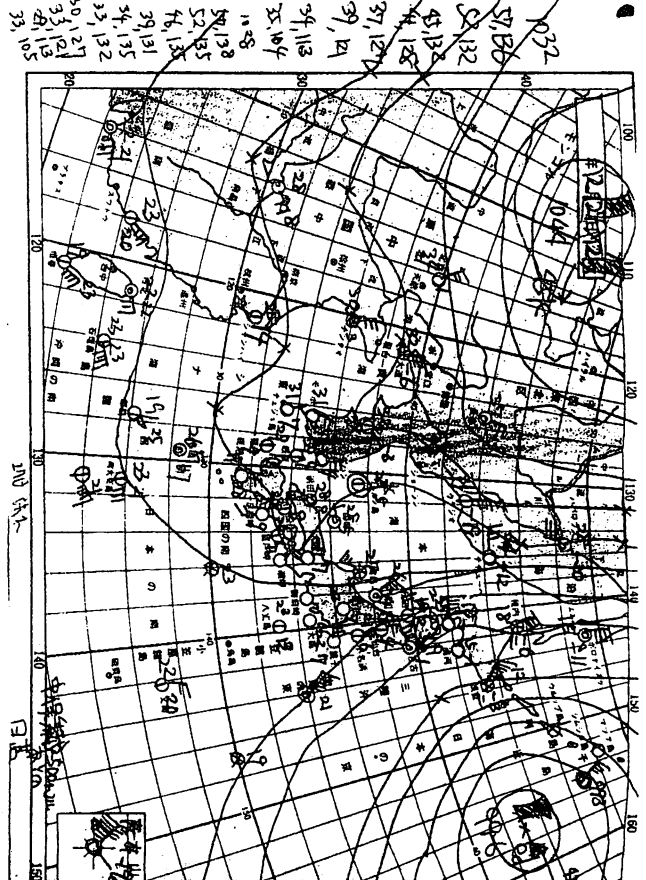
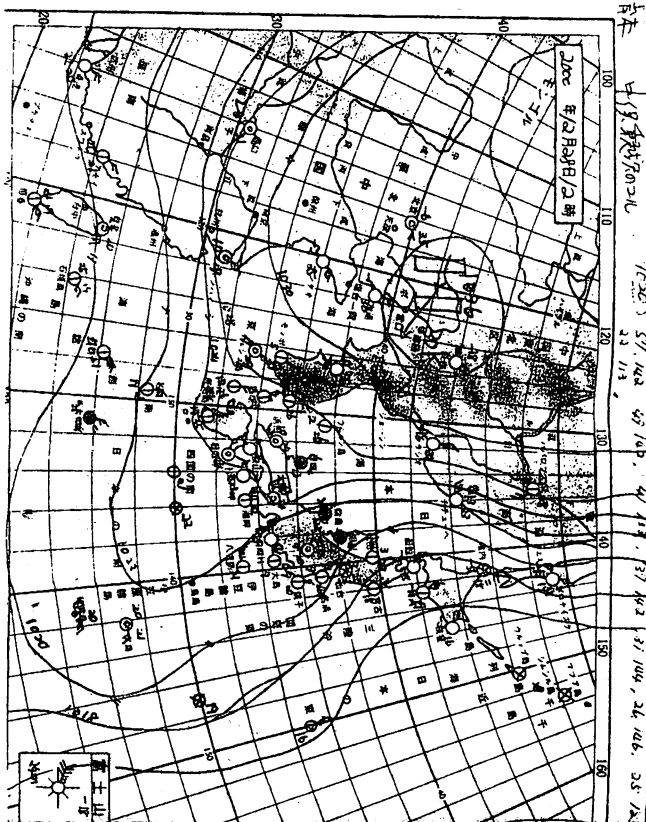
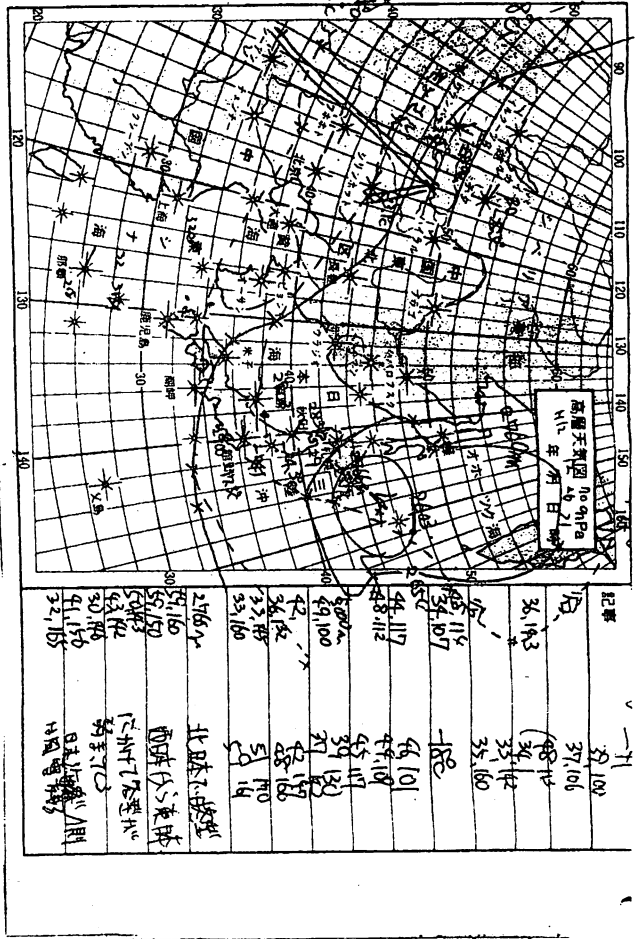
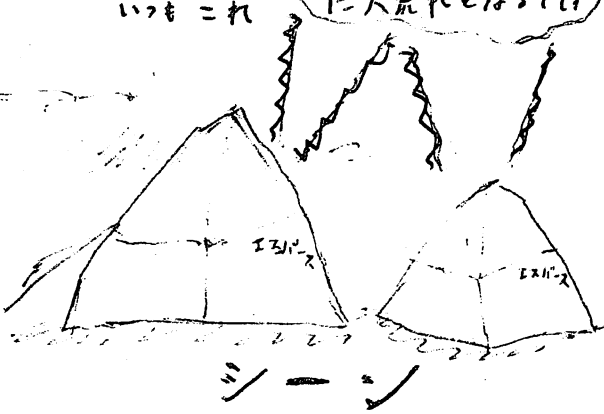
記号

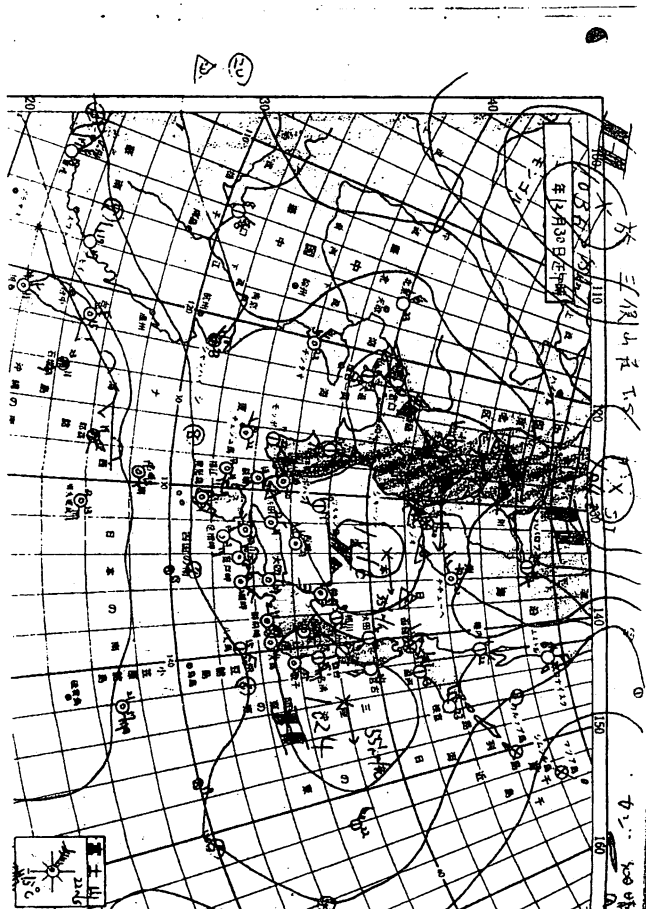
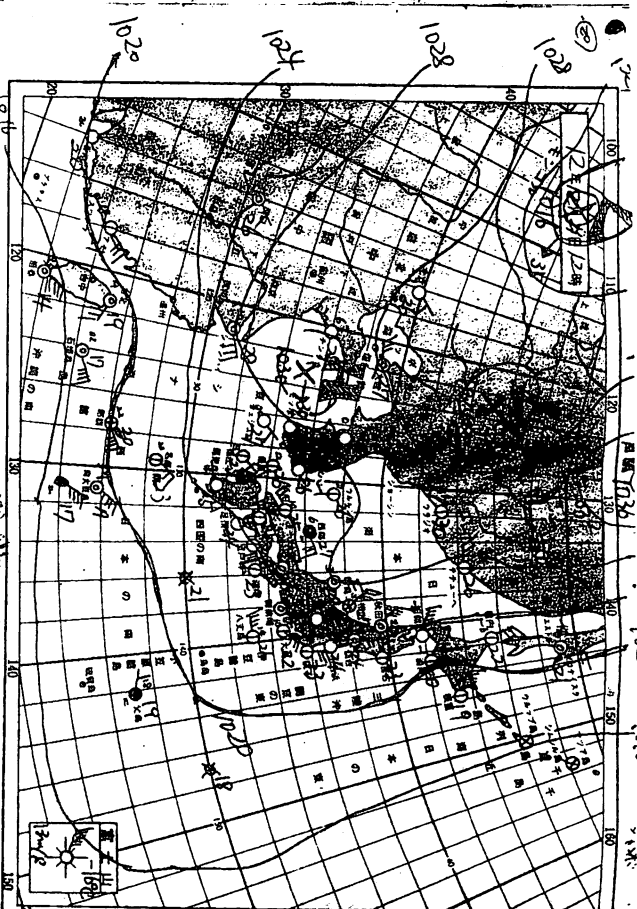
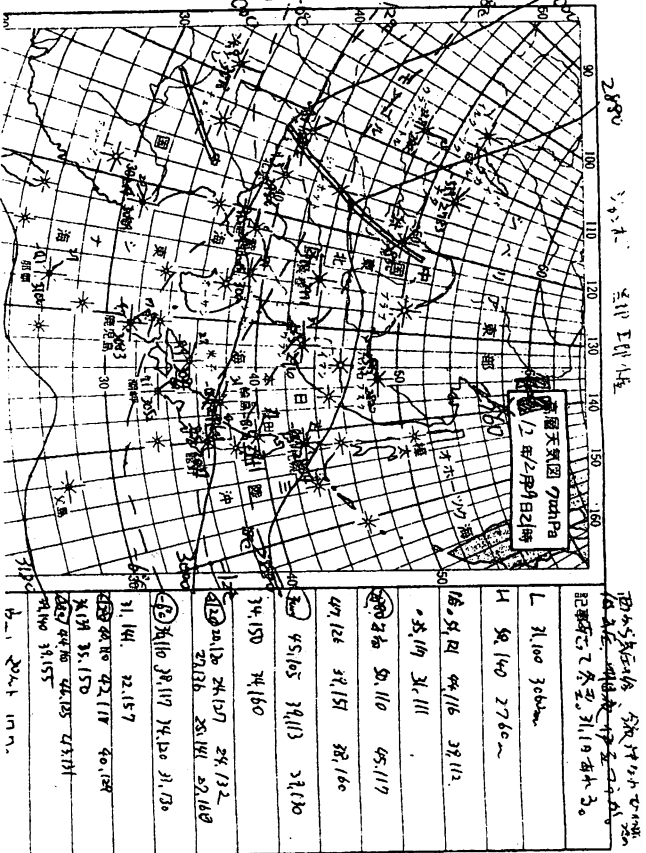
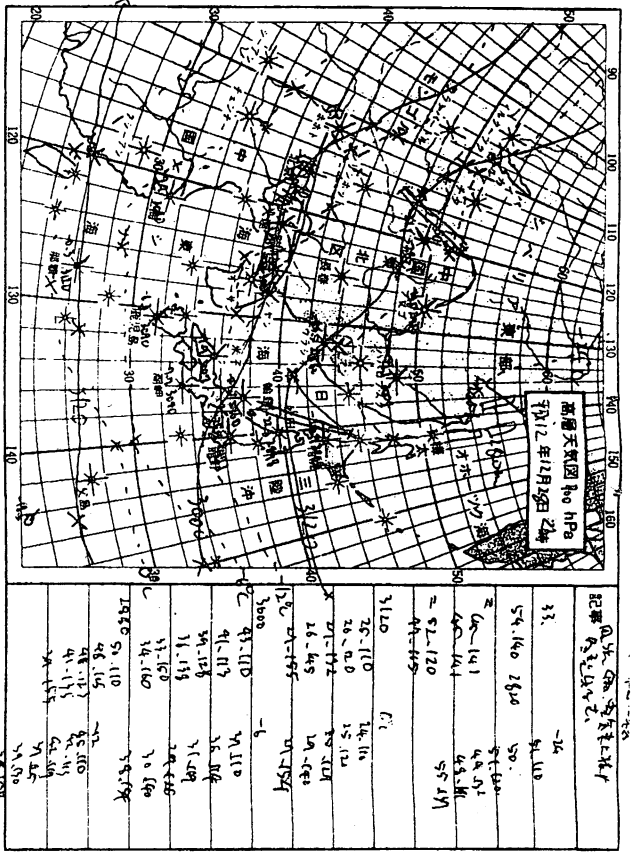
816hPa	2.1, 14.0
813hPa	2.1, 14.7
810hPa	3.1, 13.3
807hPa	2.9, 14.3
804hPa	3.0, 13.3
801hPa	3.8, 13.0
798hPa	4.3, 15.0
795hPa	5.2, 18.8
792hPa	5.0, 19.1

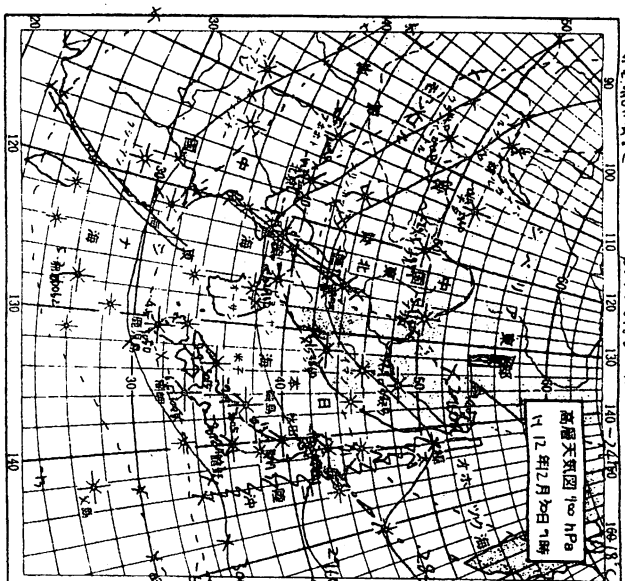
# この言葉 何度聞いた ことか!!

ラジオを聞けば  
いつもこれ

日本海、北陸を中心に  
大荒れとなるらしい

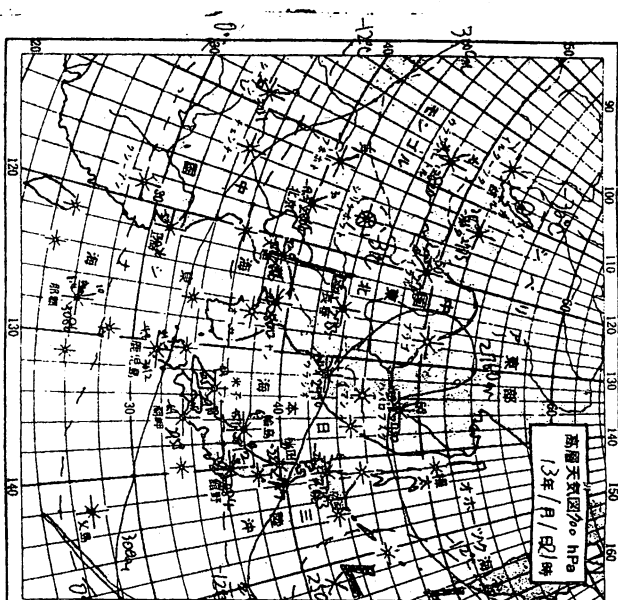






記録

45 57.156 29.650	-24
46 2.116	51.141
5 12.0	51.149
22.118	47.154
5 51.142	42.148
54.144	52
5 104	51.144
4.119	46.147
46.150	43.151
51.152	45.152
45.154	48.154
47.156	44.156
41.160	41.158
37.164	35.161
35.168	31.165
32.172	27.170
29.176	23.174
26.180	19.178
23.184	15.182
20.188	11.186
17.192	7.190
14.196	3.194
11.200	-1.198
8.204	-5.202
5.208	-9.206
2.212	-13.210
0.216	-17.214
-3.220	-21.218
-6.224	-25.222
-9.228	-29.226
-12.232	-33.230
-15.236	-37.234
-18.240	-41.238
-21.244	-45.242
-24.248	-49.246
-27.252	-53.250
-30.256	-57.254
-33.260	-61.258
-36.264	-65.262
-39.268	-69.266
-42.272	-73.270
-45.276	-77.274
-48.280	-81.278
-51.284	-85.282
-54.288	-89.286
-57.292	-93.290
-60.296	-97.294
-63.300	-101.298
-66.304	-105.302
-69.308	-109.306
-72.312	-113.310
-75.316	-117.314
-78.320	-121.318
-81.324	-125.322
-84.328	-129.326
-87.332	-133.330
-90.336	-137.334
-93.340	-141.338
-96.344	-145.342
-99.348	-149.346
-102.352	-153.350
-105.356	-157.354
-108.360	-161.358
-111.364	-165.362
-114.368	-169.366
-117.372	-173.370
-120.376	-177.374
-123.380	-181.378
-126.384	-185.382
-129.388	-189.386
-132.392	-193.390
-135.396	-197.394
-138.400	-201.398
-141.404	-205.402
-144.408	-209.406
-147.412	-213.410
-150.416	-217.414
-153.420	-221.418
-156.424	-225.422
-159.428	-229.426
-162.432	-233.430
-165.436	-237.434
-168.440	-241.438
-171.444	-245.442
-174.448	-249.446
-177.452	-253.450
-180.456	-257.454
-183.460	-261.458
-186.464	-265.462
-189.468	-269.466
-192.472	-273.470
-195.476	-277.474
-198.480	-281.478
-201.484	-285.482
-204.488	-289.486
-207.492	-293.490
-210.496	-297.494
-213.500	-301.498
-216.504	-305.502
-219.508	-309.506
-222.512	-313.510
-225.516	-317.514
-228.520	-321.518
-231.524	-325.522
-234.528	-329.526
-237.532	-333.530
-240.536	-337.534
-243.540	-341.538
-246.544	-345.542
-249.548	-349.546
-252.552	-353.550
-255.556	-357.554
-258.560	-361.558
-261.564	-365.562
-264.568	-369.566
-267.572	-373.570
-270.576	-377.574
-273.580	-381.578
-276.584	-385.582
-279.588	-389.586
-282.592	-393.590
-285.596	-397.594
-288.600	-401.598
-291.604	-405.602
-294.608	-409.606
-297.612	-413.610
-300.616	-417.614
-303.620	-421.618
-306.624	-425.622
-309.628	-429.626
-312.632	-433.630
-315.636	-437.634
-318.640	-441.638
-321.644	-445.642
-324.648	-449.646
-327.652	-453.650
-330.656	-457.654
-333.660	-461.658
-336.664	-465.662
-339.668	-469.666
-342.672	-473.670
-345.676	-477.674
-348.680	-481.678
-351.684	-485.682
-354.688	-489.686
-357.692	-493.690
-360.696	-497.694
-363.700	-501.698
-366.704	-505.702
-369.708	-509.706
-372.712	-513.710
-375.716	-517.714
-378.720	-521.718
-381.724	-525.722
-384.728	-529.726
-387.732	-533.730
-390.736	-537.734
-393.740	-541.738
-396.744	-545.742
-399.748	-549.746
-402.752	-553.750
-405.756	-557.754
-408.760	-561.758
-411.764	-565.762
-414.768	-569.766
-417.772	-573.770
-420.776	-577.774
-423.780	-581.778
-426.784	-585.782
-429.788	-589.786
-432.792	-593.790
-435.796	-597.794
-438.800	-601.798
-441.804	-605.802
-444.808	-609.806
-447.812	-613.810
-450.816	-617.814
-453.820	-621.818
-456.824	-625.822
-459.828	-629.826
-462.832	-633.830
-465.836	-637.834
-468.840	-641.838
-471.844	-645.842
-474.848	-649.846
-477.852	-653.850
-480.856	-657.854
-483.860	-661.858
-486.864	-665.862
-489.868	-669.866
-492.872	-673.870
-495.876	-677.874
-498.880	-681.878
-501.884	-685.882
-504.888	-689.886
-507.892	-693.890
-510.896	-697.894
-513.900	-701.898
-516.904	-705.902
-519.908	-709.906
-522.912	-713.910
-525.916	-717.914
-528.920	-721.918
-531.924	-725.922
-534.928	-729.926
-537.932	-733.930
-540.936	-737.934
-543.940	-741.938
-546.944	-745.942
-549.948	-749.946
-552.952	-753.950
-555.956	-757.954
-558.960	-761.958
-561.964	-765.962
-564.968	-769.966
-567.972	-773.970
-570.976	-777.974
-573.980	-781.978
-576.984	-785.982
-579.988	-789.986
-582.992	-793.990
-585.996	-797.994
-588.100	-801.998
-591.104	-805.102
-594.108	-809.106
-597.112	-813.110
-600.116	-817.114
-603.120	-821.118
-606.124	-825.122
-609.128	-829.126
-612.132	-833.130
-615.136	-837.134
-618.140	-841.138
-621.144	-845.142
-624.148	-849.146
-627.152	-853.150
-630.156	-857.154
-633.160	-861.158
-636.164	-865.162
-639.168	-869.166
-642.172	-873.170
-645.176	-877.174
-648.180	-881.178
-651.184	-885.182
-654.188	-889.186
-657.192	-893.190
-660.196	-897.194
-663.200	-901.198
-666.204	-905.202
-669.208	-909.206
-672.212	-913.210
-675.216	-917.214
-678.220	-921.218
-681.224	-925.222
-684.228	-929.226
-687.232	-933.230
-690.236	-937.234
-693.240	-941.238
-696.244	-945.242
-699.248	-949.246
-702.252	-953.250
-705.256	-957.254
-708.260	-961.258
-711.264	-965.262
-714.268	-969.266
-717.272	-973.270
-720.276	-977.274
-723.280	-981.278
-726.284	-985.282
-729.288	-989.286
-732.292	-993.290
-735.296	-997.294
-738.300	-1001.298
-741.304	-1005.302
-744.308	-1009.306
-747.312	-1013.310
-750.316	-1017.314
-753.320	-1021.318
-756.324	-1025.322
-759.328	-1029.326
-762.332	-1033.330
-765.336	-1037.334
-768.340	-1041.338
-771.344	-1045.342
-774.348	-1049.346
-777.352	-1053.350
-780.356	-1057.354
-783.360	-1061.358
-786.364	-1065.362
-789.368	-1069.366
-792.372	-1073.370
-795.376	-1077.374
-798.380	-1081.378
-801.384	-1085.382
-804.388	-1089.386
-807.392	-1093.390
-810.396	-1097.394
-813.400	-1101.398
-816.404	-1105.402
-819.408	-1109.406
-822.412	-1113.410
-825.416	-1117.414
-828.420	-1121.418
-831.424	-1125.422
-834.428	-1129.426
-837.432	-1133.430
-840.436	-1137.434
-843.440	-1141.438
-846.444	-1145.442
-849.448	-1149.446
-852.452	-1153.450
-855.456	-1157.454
-858.460	-1161.458
-861.464	-1165.462
-864.468	-1169.466
-867.472	-1173.470
-870.476	-1177.474
-873.480	-1181.478
-876.484	-1185.482
-879.488	-1189.486
-882.492	-1193.490
-885.496	-1197.494
-888.500	-1201.498
-891.504	-1205.502
-894.508	-1209.506
-897.512	-1213.510
-900.516	-1217.514
-903.520	-1221.518
-906.524	-1225.522
-909.528	-1229.526
-912.532	-1233.530
-915.536	-1237.534
-918.540	-1241.538
-921.544	-1245.542
-924.548	-1249.546
-927.552	-1253.550
-930.556	-1257.554
-933.560	-1261.558
-936.564	-1265.562
-939.568	-1269.566
-942.572	-1273.570
-945.576	-1277.574
-948.580	-1281.578
-951.584	-1285.582
-954.588	-1289.586
-957.592	-1293.590
-960.596	-1297.594
-963.600	-1301.598
-966.604	-1305.602
-969.608	-1309.606
-972.612	-1313.610
-975.616	-1317.614
-978.620	-1321.618
-981.624	-1325.622
-984.628	-1329.626
-987.632	-1333.630
-990.636	-1337.634
-993.640	-1341.638
-996.644	-1345.642
-999.648	-1349.646
-1002.652	-1353.650
-1005.656	-1357.654
-1008.660	-1361.658
-1011.664	-1365.662
-1014.668	-1369.666
-1017.672	-1373.670
-1020.676	-1377.674
-1023.680	-1381.678
-1026.684	-1385.682
-1029.688	-1389.686
-1032.692	-1393.690
-1035.696	-1397.694
-1038.700	-1401.698
-1041.704	-1405.702
-1044.708	-1409.706
-1047.712	-1413.710
-1050.716	-1417.714
-1053.720	-1421.718
-1056.724	-1425.722
-1059.728	-1429.726
-1062.732	-1433.730
-1065.736	-1437.734
-1068.740	-1441.738
-1071.744	-1445.742
-1074.748	-1449.746
-1077.752	-1453.750
-1080.756	-1457.754
-1083.760	-1461.758
-1086.764	-1465.762
-1089.768	-1469.766
-1092.772	-1473.770
-1095.776	-1477.774
-1098.780	-1481.778
-1101.784	-1485.782
-1104.788	-1489.786
-1107.792	-1493.790
-1110.796	-1497.794
-1113.800	-1501.798
-1116.804	-1505.802
-1119.808	-1509.806
-1122.812	-1513.810
-1125.816	-1517.814
-1128.820	-1521.818
-1131.824	-1525.822
-1134.828	-1529.826
-1137.832	-1533.830
-1140.836	-1537.834
-1143.840	-1541.838
-1146.844	-1545.842
-1149.848	-1549.846
-1152.852	-1553.850
-1155.856	-1557.854
-1158.860	-1561.858
-1161.864	-1565.862
-1164.868	-1569.866
-1167.872	-1573.870
-1170.876	-15



高層天気図 No. 1176  
13年1月1日 0時

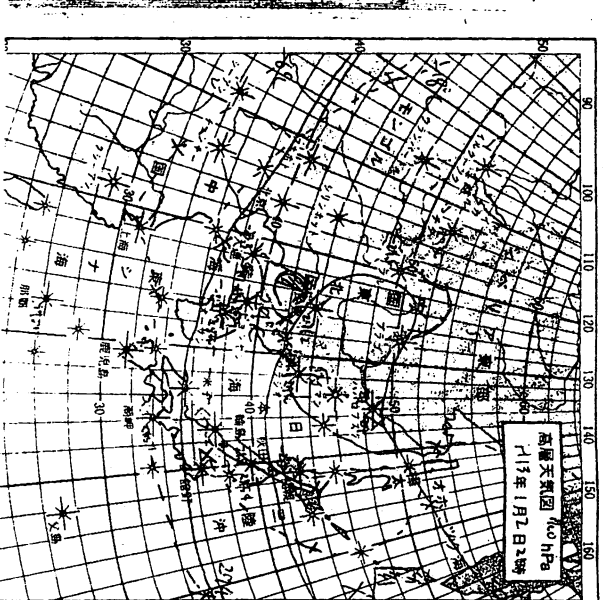
記事

L. 42.152 2000  
47.159 2720  
41.133 2800  
H 52.144 2100

6.074 153 28.194 29.112  
6.447 172 28.132  
6.411 105 28.08 32.132  
3.144 140 28.144 32.160  
3.170  
3.170 45.124 40.142 31.150  
42.160 28.152 31.140  
3.118 36.118  
3.118 116

20.102 28.100 25.112  
30.154 40.110 32.117  
2.110 36.100 35.155  
2.110 50.152 2.112

上層雲と冬雲。  
高層雲は冬雲。  
雲全体は冬雲に似て、  
雲は冬雲に似て、  
雲は冬雲に似て、  
雲は冬雲に似て、

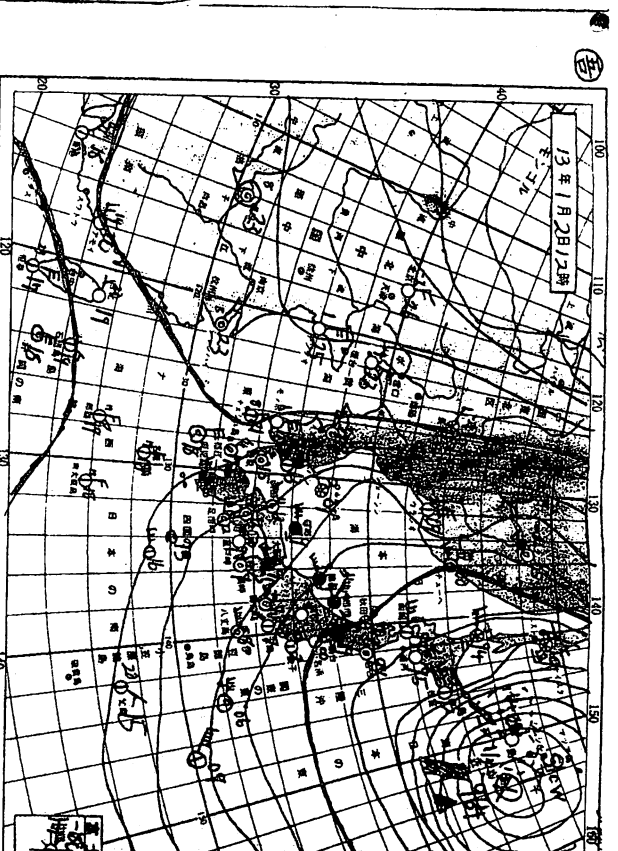


高層天気図 No. 1178  
13年1月3日 0時

記事

45.154 1500  
41.154 2720  
41.133 2800  
H 52.144 2100

6.074 153 28.194 29.112  
6.447 172 28.132  
6.411 105 28.08 32.132  
3.144 140 28.144 32.160  
3.170  
3.170 45.124 40.142 31.150  
42.160 28.152 31.140  
3.118 36.118  
3.118 116

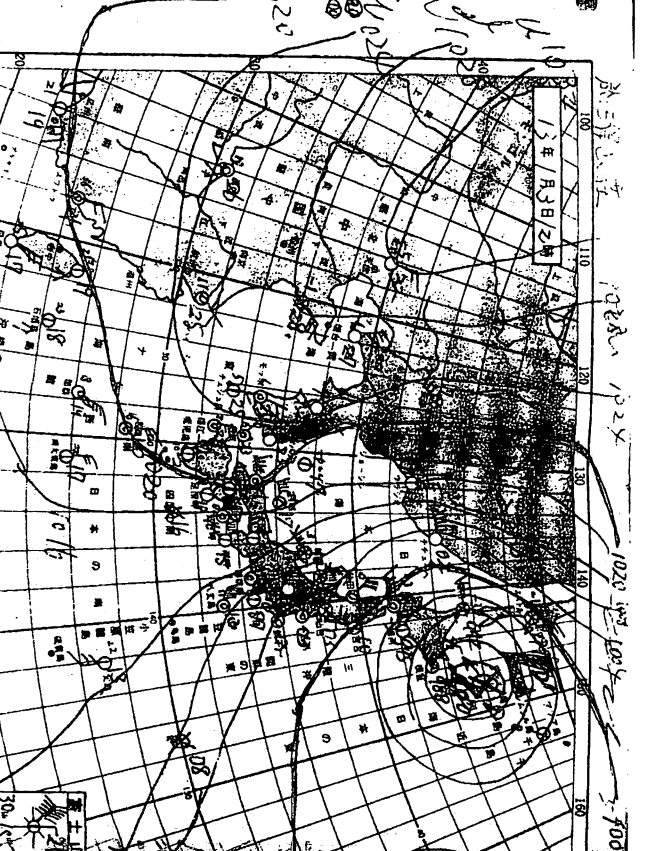


高層天気図 No. 1175  
13年1月2日 0時

記事

L. 42.152 2000  
47.159 2720  
41.133 2800  
H 52.144 2100

6.074 153 28.194 29.112  
6.447 172 28.132  
6.411 105 28.08 32.132  
3.144 140 28.144 32.160  
3.170  
3.170 45.124 40.142 31.150  
42.160 28.152 31.140  
3.118 36.118  
3.118 116



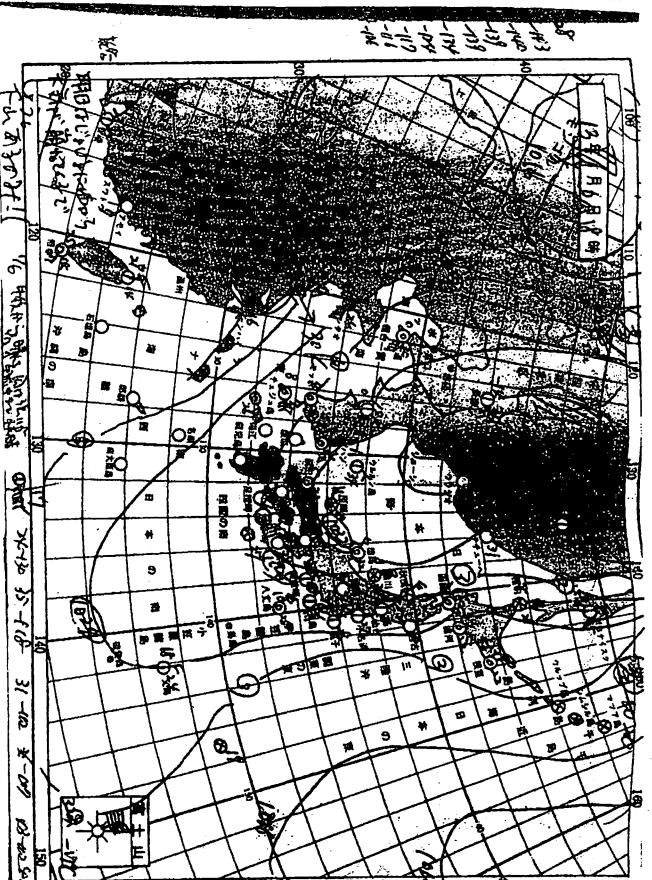
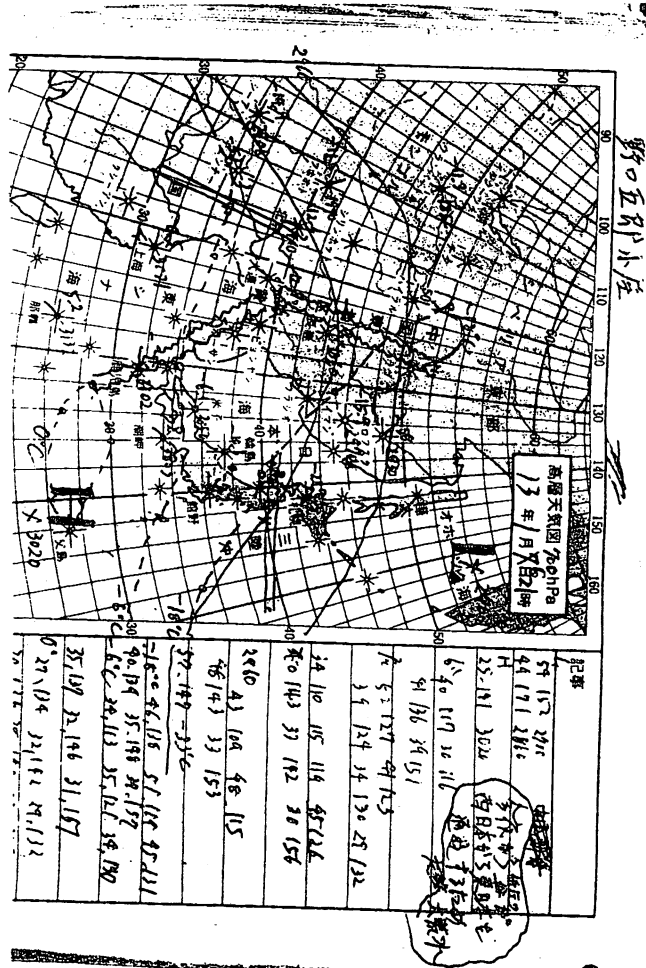
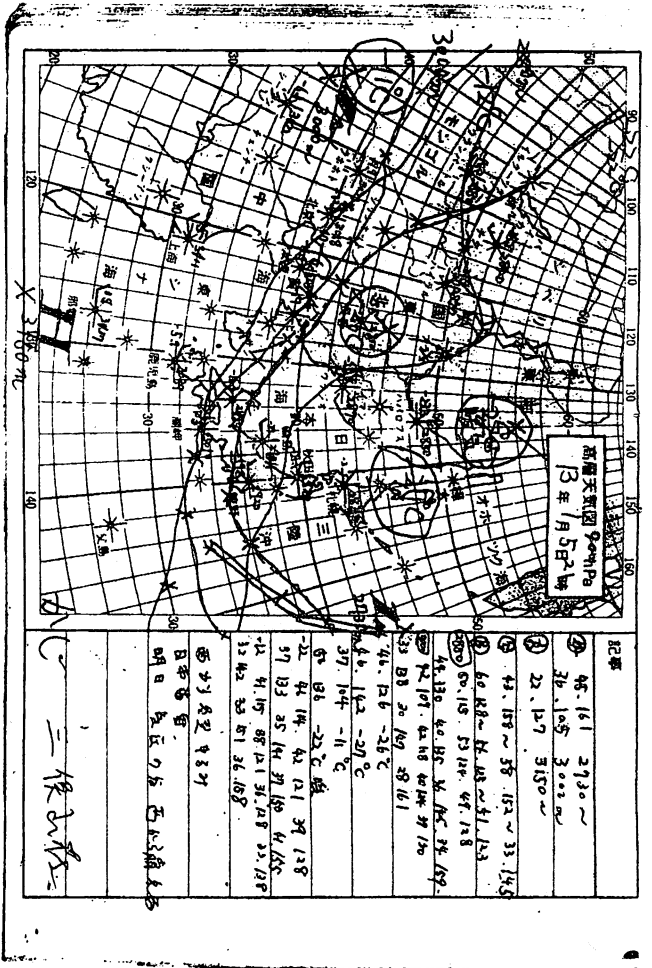
高層天気図 No. 1175  
13年1月2日 0時

記事

L. 42.152 2000  
47.159 2720  
41.133 2800  
H 52.144 2100

6.074 153 28.194 29.112  
6.447 172 28.132  
6.411 105 28.08 32.132  
3.144 140 28.144 32.160  
3.170  
3.170 45.124 40.142 31.150  
42.160 28.152 31.140  
3.118 36.118  
3.118 116





最終日  
朝焼けの中  
富士山が  
見える

又し振りに  
見たら



# 天候の変遷 (0:沈殿)

①→②	②→⊗	⊗	②→⊗	①	⊗	①	①→②
12/23	24	25	26	27	28	29	30
水の平	避難小屋	避難小屋	(荷下り)	中候乗越	乗越沈	黒部五郎↓小屋	三候運筆↓山荘
T.S	T.S	汎		T.S		T.S	T.S

⑥→⊗	⊗→②	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗→①	①→⊗
31	1/1	2	3	4	5	6	7
三候山荘			テント破壊、診療所へ移る			11時頃晴れる。ワシ羽↓野口五郎↓小屋	ブナ立尾根下山
汎						T.S	

→ 風強まる。寒さも厳しく。

・天候が周期的に11日返して11日。  
 12/23, 24 と 12/30, 1/1, 12/21, 30 と 1/6, 7  
 では、11日とも天気が似通っている。

・今回のF-1a 顕著な寒気の吹き出しの際には、2月までの天候の  
 繰り返しも参考にできる。

(南アでも使えそうでしょう)

- ◎ 6人テントのポールがおくれた。  
→ 老朽化していたのか? しかしそこまで考えて常に交換というわけにはいかない。だが、いつのものなのか把握しておく必要はある。
- ◎ トランシーバー 1個使えなかった。チェック不足。
- ◎ 竹ポール 10本忘れた。申し訳ない。
- ◎ FEX臭は今回 1回しか使わず、はきりいらて臭いだけだったが、今回位のレベルでFEX臭がどれだけ必要なのかというのを把握しきれなかった。しかし、今回以上にする必要はないと思う。あとは人数との関係もある。
- ◎ 食器を個装にしたのは、混乱するかとも思ったが、そういった心配も実際はなくて良かった。

◎ 紛失

- ・ 6人テントポール → こわれた。
- ・ 銀板 1個 → こわれた。
- ・ ナイフブレードセット 1枚 残置。
- ・ 田舎食器 2個 → こわれた。
- ・ ローソク用針金 1個

◎ 消費

- ・ ローソク 7本。
- ・ メタ 35.5本。
- ・ 白ガス 10L (1日当たり 4.667L 1人あたり 74ml)  
↳ 途中水を使ったのと、沈殿が析出したのがこの結果。  
しかし実際日も1人あたり 90ml 以下はなれた。あのエ池の量で、  
でも、ガスはクチッてはいけない。

冬の装備はとにかく事前のチェック!

チェック、チェック チェック!!!

MSRには注意。いつまでたっても問題はおこるが、本当に注意!!

## エッセン係からの反省

今回のエッセンでは自分の力不足を上級生の方々の協力で埋め合わせていただいた。どうもありがとうございます。

- ・計画書がわかり辛かった。もっと見やすい計画書にするべきであった。
- ・下山後、皆から油分の多いシチューやハッシュドビーフなどは食べにくいとのご指摘を頂いた。さっぱりとしたキムチ鍋や、コンソメ汁などがよいとのこと。
- ・レーションは好評だったプレ冬の時と同じく岸本さんに品定めをお願いした。今回も大成功だったと思う。クズ類は極力無くし、チョコを増やしてもらったが、レーション・昼飯に関しては文句はつけがたい。どうもありがとうございました。
- ・予備食には今回雑炊を作ったが、とても温まり、程よい満腹考えられるので雑炊が最適であると思う。
- ・ドライ納豆は昨年の新人合宿以来のお目見えとなるが、大好評であった。しかし人によってかける量が異なり、イザコザが起きるので(笑)合宿または長期の山行には個装としてあらかじめ分けておくことをお勧めする。
- ・ふりかけは今回納豆があったため普通の量の半分を使ったが、やや物足りなかった。
- ・おやつは行動後の一息の飲むのが最高。いろいろなバラエティーを取り揃えると良いと思う。

おわりに

今年は10日近くの沈殿日があり、また近年稀に見る寒い冬でした。食い延ばし等による栄養不足から、下山後に足や手の痺れを訴える人も多く、危ないところではありましたが、それでも皆五体満足に降りてこられたのは現役、OB、そしてその他様々な方からの差し入れ等のご支援によることであつたと思っております。この場を借りまして厚く御礼申し上げます。ありがとうございました。

冬合宿エッセン担当

野川謙介

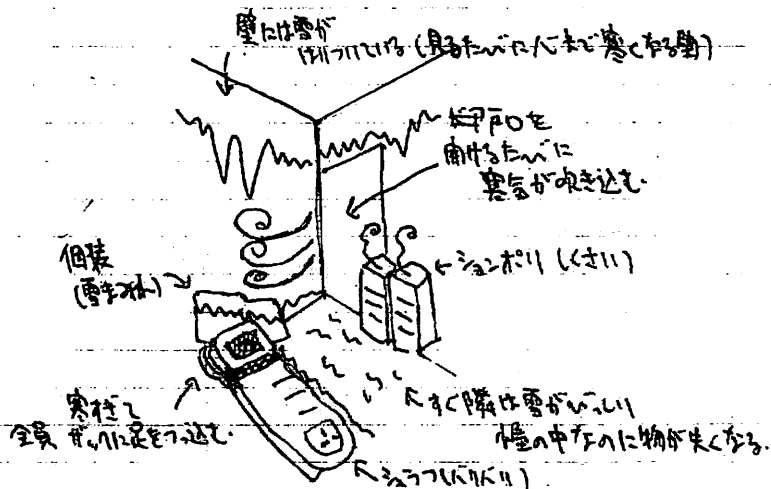
# 気象の反省

- 1/6 AM 6:00の天気図をきちんと書くべきだった。  
(天気図はこの日の行動を決定つける。山の貴重な情報源。)
- 天候の悪化を事前に意識していなかった。  
(去年の状態、長期予報はうのみにして!!)

## 改善点

- 冬合宿では予備の天気図(折り)を一冊持ちこよう。  
いざという時に書けないうのは困る。
- パソコンで高層図、週間予報支援図等、情報は手軽に入手できる。  
読み方を勉強し、入山前の参考にできるようにしよう。
- ラジオの天気時図を調べておく。(AM, FM, TVがへて。)  
主として
- 去年の状態は参考にしない。冬は例え12月でも、最悪の天候を  
頭において山行に望もう。

## 気象係 knock



診療所概念図 (Knock 作)

その必要な環境は  
一生たれない

\* 診療所が壊れては助かれません。

# 医療係の反省 松崎林太郎

初めての医療係だったが、医療缶の中身は別段工夫することも無く終わった。途中下山するものもいなくそれが何よりでした。

- ・ 目薬、ワセリンを忘れていた。
- ・ 抗生物質の飲み薬を持っていくべきだ。
- ・ 医療係として事前に凍傷の対策など冬山の医療を勉強していくべきだった。
- ・ 医療缶にあるビタミン剤や風邪薬は、個人の装備として義務化すべきだ。

\* 以下に個人が最低限持つべき医療品（積雪期縦走において）

- ・ 三角巾・風邪薬・胃腸薬・ビタミン剤・ワセリンなどの凍傷防止薬
- 個人がある程度医療品を持てばその分医療缶が充実するのでは。



合宿後 J君とS君は、<sup>\*</sup>トレチフト

になり、夜も眠れぬ痛さに悩まされています。二人が歩くのも大変そうにする姿を見ていると強烈な合宿だったのだとしみじみ感じます。

\*トレチフト……長時間足元を低温下にさらすと起る神経障害

## 予防策

これからは、寝る前に足をさすたり、もんだりして暖める。~~おろ~~

テントシューズははく前に胸の中に入れて温める。

買い物に行っても



遅くなる

かわいそうな二人

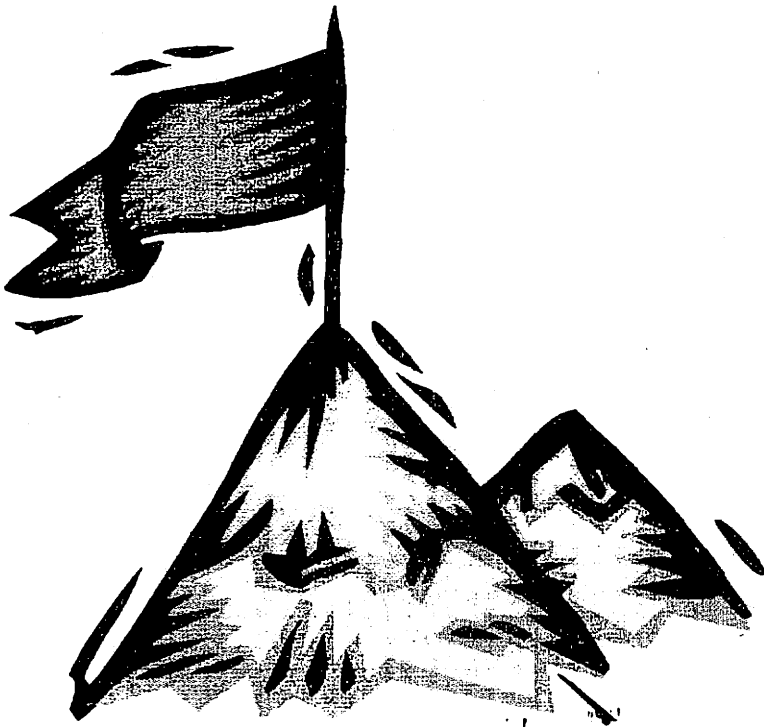


いたく早く手付ない

記録の反省 (佐藤)

- ・ 時間の正確さに欠くところがあった。
- ・ 「～時 一本」という書きかたより「～時 ～山頂」という書き方のほうがよかった。
- ・ なお皆様のご協力に心から感謝いたす。

☆  
エラソーにぞい!!



・ グルメドール のとき 日記録帳を忘れました。すみません。

ある日の会話...

岸: 「あい、佐藤。記録帳もどみかたに同じで色々書いてもらえよ。」

サ: 「ハイ。」

岸: 「上級生だからって遠慮しないで "書いて下さい"、って接せはいいんだよ。」

サ: 「じゃ、岸本さん書いて下さい。」

岸: 「。。。」

いい度胸してるじゃないの。佐藤君。

# 会計・渉外

## ・会計

収入 15,3000 円 (17,000円×9人)  
1,2000 円 (差し入れ)

---

16,5000 円

支出 106,691 円 (食費)  
15,254 (装備)  
25,365 (交通費)  
1,890 (雑費)  
10,000 (宴)

---

159,200 円

残金 5,800 円

## ・渉外

車を出して頂いた皆様方、  
どうもありがとうございました。

## ・反省

- ・ 早め早めの会計・渉外。
- ・ ドライバーの方へ、ガムの支給。→ 事故防止
- ・ 冬期小屋、林道情報の確認。
- ・ 携帯電話。

\* 合宿前、一箇の手紙が届いた。

しかも現金書留で。

ほて、と思ひ 学生部にハンコ  
をもらって尾を運ば。書留は  
京都在住のOB若林氏からび  
あ。F。部室に持ち寄り開封。

中をみると手紙。そしてややや!!

小嶋君様にお願いのとがせているで  
はありはるか!! 同封の手紙には強

いお言葉。お金はカマノヒコと。

不況の昨今、アムビリーバホーを

出来事した。若林さん 本当にあ

りがとうございすした。



担当: 梶原

今回は食料、装備、準備、行動全般、個人の反省感想の5項目を設けて各自で合宿を振り返ってもらうことにした。お互いの分析をこれから役に立てよう。

### 食糧

軽量化を優先しカロリー・栄養不足が指摘された昨年度合宿の反動か食糧事情は充実していた。重量と栄養価は二律背反するものであるが費用をかければある程度は解消できる。個人的には長期の縦走においては食料を削っても大してスピードは上がらない。多少重くともそれを担いで歩くだけの体力をつけて望むのが正しいありかただと思う。どこからが過剰かは体格などの個人差もあるので一概には言えないが今回は一日あたりおよそ平均 4000Kcal 摂取していた。このあたりが目安となるだろう。ビタミン等の栄養素に関してはお金をかければ行動食で完璧に近い補給ができる。さらなる研究と工夫を期待したい。今回、行動食全般の選定をさせてもらったわけだが、改善点は途中風邪によるどの不調を訴えるものが多く行動食に飴をもう少し増やすべきだったこと。後半、味の単調さを訴えるものがいたが贅沢は二の次。我慢。行動食はどれくらい買えばいいのかいつも迷うところであるが今回は1食(レーション昼飯あわせて)約450円。昼飯は100円ショップがほとんどだった。今後の参考にしてほしい。

夕飯に関して、極度に油分の強いものは激しい行動の後には激しい。塩気が強くあっさりした味付けがベストかと思う。新メニューの導入など何か新しい事を試す場合は前もって実験をしておくほうがよい。

### 装備

ビーコンの電池と無線機の不備が最大の反省か。どちらもピンチのときに使うもの。最悪の状況を前提にした更なる用意周到さがほしかった。無線機は高価だがそろそろ買い替えの時期にある。今回はそうでもなかったが Fix が連発し頻繁な無線機の使用が見込まれるルートでは操作性を重視してハンドマイクの装着も考えたい。

赤旗が少なかった。使う場面は少なかったけれどももう少しあったほうが心強い。赤布だけ持ってくるというのも一つの手だろう。テントのポールの破損は多少の老朽化を考慮に入れてもあれが限界と考えていいだろう。幕営地の選定ミスであった。

### 準備

準備について、まず計画段階からもう少し無雪期の偵察を丹念に行うべきであった。特にエスケープの1つであった竹村新道の偵察を行っていなかったことが最後になって行動に制約をもたらした。ルートのを全てを偵察し尽くしてしまうのは未知性への挑戦という登山の楽しみの1つを奪ってしまうものであり、過剰な偵察は山行の応用性に欠け個人的には好きではないのだが合宿においては退路の把握は完璧を期すべきであった。大きな反省の1つである。また下山地点への車のデポももっと様々な可能性を考慮して



慎重に行いたい。とはいうものの合宿の計画準備段階で、起こりうるリスクをどこまで許容するかを一人で判断するのは非常に難しい。来年以降合宿前の早いうちにみんなで行動中の危機管理について様々なシュミレーションを行ってみてはどうだろうか。いざというときにきつと役に立つ。

準備日を1週間前に設けたが時間にゆとりが持ててよかった。

## 行動全般

まず、天候が悪く思うように行かないことが多かった。荒天時の行動は控えるというのが冬の原則の1つではあるがこの原則に縛られてしまつては冬山での行動範囲は実に狭いものになる。動ける、あるいは動いていい荒天なのかほんとに荒天なのか、悪い天気にもいろいろある。合宿である以上無理は控えたが全体的に荒天に対する免疫が低いと感じた。合宿でなければ9日半の沈殿のうち4日間は動いただろう。

30日に嵐を見込んで三俣山荘前で行動を止めたのは正解であった。その後の天気を見る限りこの時ペースを上げていたら一晩とテントは持たなかったかもしれない。ただ行動を止めたのはよかったが背後に控える小屋の存在に安心してか幕営地の選定に甘さが生じた。25、26日のクリスマス寒波の後で大量の降雪があつたにもかかわらずなぜ小屋の前は土が剥き出しなのか？なぜ小屋の正面入り口の右側に雪が吹きだまっていたのか？この二つの事実から導き出される結末をもっと厳しい視点から突き詰めて考えるべきだった。風は確かに恐ろしく強かったがテントの倒壊は未然に防げただろう。小屋も開けずにすんだかもしれない。不覚。今合宿、最大の反省である。

6日と7日の行動判断についてはあれが最善の選択であつたと思う。今回のような短い晴天の場合、晴れのピークがどこにくるのかを読むことが大切である。

毎日のミーティングは反省・意見交換・翌日の計画について要所要所では活発なやり取りがなされしつかり機能していた。

MSRの燃料漏れによる炎上事故があつた。あれがテント内でおきていたら…。運がよかったとしか言いようが無い。火器の取り扱いにはどんなに疲労していようと手を抜いてはいけない。また、間違つた扱い、いいかげんな扱いには相手が誰であろうと気がついた人間が注意すること。

## その他

年末年始の寒気は輪島上空3000メートルでマイナス26℃。昨年とは比べ物にならない寒さだった。通常の天気予報で「強い寒気」というと上空5000メートルでマイナス30℃当たりが基準らしいのだがそう考えるとやはり今回は寒かつたのであろう。最近の暖冬傾向とシーズン初めの暖冬予報から我々の山に対する意識は自然と甘くなつていた。ただこの年末年始の寒気団の到来はしっかりと高層気象を読める人には予測がついてたようで、インターネットを駆使すれば簡単にデータは手に入るのだから我々も独自にもっと勉強会を開いて高層気象の知識を身につけるべきであらう。このさき入山山城に

よってはその事前の情報収集一つが山行の明暗を分けることがあるはずだ。

またその他全てにおいて言えることだが俺はこれでやってきたからこれでいいという姿勢はチームで物事にあたる場合はマイナスに働く。いろんな意見をもっと出し合おう。

### 反省と感想

「仲間を思う気持ちと自分に課せられた役割への使命感。この二つを合宿では大切にしよう。」と計画書のはじめに私は書いた。チームで物事にあたる場合この二つが何よりも大切になる。今回はどうだっただろうか？自分を基準に振り返れば合宿中は計画の消化と隊の効率に頭を取られ悶々としていることが多かった。そうして決断に迷うときや踏ん切りがつかない時に回りのみんなはよく補佐してくれたし、出した指示にはすばやく反応してくれた。それぞれが自分の役どころをよくわきまえてくれて今回、登山はやりにくかったけれど合宿はやりやすかった。目標はかなり達成できたと思いたい。いい仲間にも恵まれたと思う。残念ながらお天道様には恵まれなかったがそれは仕方なし。ルートの完走もしたかったけれどそれも仕方なし。十分満足できた。これでよし！

◎最後になりますが入山前、様々な方々に応援をいただきました。また下山日が詰まって多くの方々に安否を気遣っていただきました。この場をお借りしてご心配かけましたこととお詫びすると共にお心遣いに深く感謝いたします。



今年「暖冬」のはずだ。しかし  
沈殿中、鼻毛も凍る冷気の中、Fの100  
「ビニがた、フーの」ニハに居る。  
天気の話に尋ると暖冬予報を出した  
予報官を小屋の屋根に縛りつけてや  
たい。ヒヤで言い合うニハはは  
びあ、た。

# 合宿 反省と感想 4年 日高弘次

〔食糧〕 L-3の類はカスも少なく、無駄のない良品だった。ただ、甘いものが多くなるので飽きが出る。まだ改良してほしいと思う。また、今回袋が異常に弱かった。次回からは、袋くさい買おう。

飯は満足だった。野菜類を乾物にして、肉のみペカンで肉7割/11の方法だと、従来の野菜入りペカニと重さはあまり変わらないのではないだろうか。肉を多く食べるし、乾物は利用価値が高い。

〔準備〕 今日はアしたところから、準備日を決めてやったのが、合宿の雰囲気づくりの面でも良かった。準備からアした合宿は始まっている。

〔準備〕 C-2の電池が土びりたため電源を入れても、反応しない時があった。今後は電池を取り出してチェックすべきだ。竹ヤケを現地調達という事で持って行かなかったが、はな松を切って、3km以降持ち歩くというのは、結局は竹ヤケを持って行った方が軽かったのではないだろうか。携帯電話は使えないし、多分方が安心。いっばい持たそう。

〔合宿の計画〕 春から聞いていた計画だった。慌ただしく決まると違い、気持ちの上で準備ができていて良かった。

今日のルートは合宿としては向いていないものだったと思う。エスケープも少ないし、船溜の山域が不気味だったし。

しかし、今年は一年も少なく、ほとんどが土級生であつた。この縦走をするかも会にはあると思われ、可能性のあるルートだとも思う。こういうアグレッシブな合宿も、状況次第ではとても良いと思う。

〔行動〕 荷物が重かったため、前日の荷上げが効果大だった。しかし、今回食糧を上げると、寺地山の小屋で2沈を喰らった際、干物を回収に行かなくてはならなかった。天気予報にもよるが、干物の食糧カスは多めに残すべきだろう。干物地が荒れると回収困難な場所の時は、特に注意すべきである。

黒部五郎小屋でMSRが壊したが、テントでなくて運が良かった。  
 ガス入れを味人のミスだが、使用際に缶が急冷したのもミスである。  
 駒小屋と缶が倒れるが、火器には注意して、注意し過ぎる  
 事はない。というのを今回も思い知った。

また、一年には注意された。自作の書。てる事の重要性がわかって  
 いない事が多いので、こう書く方がよい。

三保下らについて、テントを張る場所は小屋の前の強風地帯では  
 なく、夏期診療所の前の坂の端に張れば、テントも破壊され  
 なかったのではないかと。もしくは、小屋の横の一段低くなった所に、  
 テントを積んで張れば、破壊は免れた。小屋があるとはいえ、  
 北風に吹かれた風も十分強いという事を今回知った。

6日の行動について、夜に行動するというのは今までに体験の  
 ない事だったが、月が出ていけば、雪が反射して歩ける。

6日の午後から7日の午前中まで天気が良いとの事だった。6日は  
 朝、沈殿と決定してしまえば、天気予報と、夜でも歩けるという考えが  
 あったのなら、待機にして待つ方が効率が良かった。何は  
 ともあり、6日のうちに野口五郎まで行けて良かった。

小屋開けについて、ターを破った。三保山荘、岡山大の人達には  
 本当に申しわけない。しかし、テントが壊れて、荒天が長びくのが分かって  
 いた中、雪洞だと消耗してしまえば、いざという時に動けないのでは  
 ないかと、どつぱりにはまる。申し訳ないけど、開けるほか無かったと思う。  
 三保山荘は、テントが破壊されるような事は無いように、テント場は慎重に  
 選ぶ。三保のみならず、でも助かりました。おかげどう。

(勝手ながら)

また、おかげで沈殿が続くと、いつたまたま動けるのか？とか、食糧の  
 関係などで(俺は)ビビりして、いざいざつまん事で腹を立っていた。  
 沈殿中、おかげで沈殿が知れれば、誰でも焦りが  
 出くはる。

そういう状況になると、お互いの協力が大事になる。いざいざ腹を立たせ、  
 誰かが苦痛しては、面倒でも手伝う。という協力と思ひの妻が  
 大事だろう。

[反省] 体調管理ができていなかった。に尽きる。  
 合宿一週間前から体がしんどくて、体を直すのに  
 努力したが、結局直りまておらずに合宿中、風邪  
 をひいた。体調が悪く、周りに迷惑をかけた。  
 申しわけない。

[感想] 全員無事下山して、安心感は今までで一番大きかった。  
 冬山は、技術・体力だけでなく、応用力というものも、  
 必要不可欠なものだと、今までの山行の中で一番思った。  
 最後までトレスできなかったが、今回の貴重な体験  
 (無事下山できたかと言えぬけれど)は、普通の山行では  
 得られないものだから、今回の経験を今後に生かし  
 行く事が大事だと思う。

また、今回周りの人間に多大な迷惑をかけた事を  
 謝りたい。と同時に、サポートしてくれて、本当に感謝して  
 いる。

最後に、みんな無事で本当に良かった。と=たつて  
 今思うわけである。あつかいさま。



29日、ホカホカ陽気の更部五郎小屋。

栢り匠山は、やわらかな陽光のもと

「管み」にはほけむ2人の海が...

平和な光景であった...

「かりぎの 晴れ間にさよなら

ほほゆるみ づら尻の 穴ゆるみけり  
 (おもしろ)  
 おもしろ

# 冬合宿の反省と感想

梶原 恵 (三年)

## 1. エッセンについて

- ・調味料類の充実。 ・棒ラーメン廃止へ。
- ・より軽量化も…。 ・おじやは Good!!

## 2. 装備について

- ・シーバーの故障
- ・ビーコンの電池

## 3. 計画段階における反省

- ・エスケープルートが少ない時には、予備日も多めに。
- ・個人山行ではなく、合宿なのだから、行動予定は、のんびり目にとっておく。

## 4. 全般的な反省

- ・トップを歩くことになる。二年、三年は必ず下見に行っておく。地形的概念がつかめていないと話にならない。
- ・最終下山の前日に下山ということになり、各方面には迷惑をかけたが、その場、その場における現場の判断は、ベストのものだったと思う。
- ・一年生の佐藤は、もっと体力を!!  
二年生の野川も、もっと体力を!! そして、もっと回りの状況を見て、自分が何をすべきかを考えるように。  
三年生は、より、安定感を。どっしりと。  
果たして、四年に引導を渡すことは出来ただろうか?  
四年生は、ありがとうございました。

5. 個人の反省と感想

○反省

今回は合宿前の山において、ひざを痛め、参加するかどうかを迷っている状態であった。

そのため、あまり、ラッセルド、Fix 隊という、

三年としてやるべきことができなかった。

この山は、来年のことを考える上で大切な山であった。自分は、この冬合宿は、四年にとって、最後の合宿であり、そして、残されるものが、四年に引導を渡す合宿であると考え、

その上で僕ら三年は、引導を渡せただろうか？

技術、経験といった面では、不安はないだろう。

今回気づいたことは、「安定感」の無さ。

今の三年には、まだ、どっしりとした安定感がない。

昔、亮介さんや、川井さんに抱いた

「この人と山に行けば事故らない」といったもの。四年という学年をこなしていく内に身につくものかもしれないが...

意識していこう!!

○感想

大沈!! この一言に尽きる。

そして今も残るこの両足の疼痛!!

こんなにも「ダメージ」が残るとは...

あっは。れ!!

以上

# 冬合宿の反省・感想

98S6024H

木嶋 勝兵衛

## ○エッセンについて

吾郎お疲れです。7月冬合宿の失敗、昨年の冬合宿の失敗を覚えておくべきだと思ふ。エッセンや装備は、前回までの成功のいかうまく生かすか。失敗のいかう克服するのにかかっている。そこに自身のこだわりを取り込みながら言うべきではない。前回までの計画書と反省をよく読みなおして最大限活用するべきだ。

## ○装備について

冬は風対策!! FIXはほとんど使わなかったから、どの位の量が適当なのかよくわからなかったが、今回の量以上にするには合宿ではよほどの山でないとならなう。

## ○出発前まで

メンバーが少なく、7月冬後にこそ、とやめてしまいたが、なんとか緊張感を保てた。準備もはやき終わってテキパキして良かった。しかし地図をそろえていなかったり、準備の不備もあった。やはり「慣れ」があったことは否めない。

## ○行動全般について

出発前の不安とは裏腹に非常に素晴らしい緊張感を保てたと思ふ。途中沈没に陥らねたのは危険性もあったが、水を懸念しなかったのは良かった。これは4年生の努力と山岳会員全員が各々やるべきことをやった結果ではないか。「合宿」としては良い経験はたしていったように思う。

## ○個人の反省・感想

山はムズかしい。それにつける。自分運のち、ほけな実力など何の役に立たない。いやというほどそれを思い知らされた。山のこわさを再認識した。しかし、全部HL-スでできなかったことはそれほどよくない(首はどうか知らないが...)。来年以降に向けて大きな収穫があったと考へたい。

個人的には、サゲリ-ダ-としてどうだったかを考えると、前半は少し甘えが出てしまったようにも思う。それをメンバーの構成(体生が少いせい)などの理由にしたくはない。

あ〜でも冬山はやっぱいいなあ。たのしいよ。うん。



屁というものは生理現象だから仕方ない。出るものは出て(もう。でもねえ。ジキ流君。人の睡眠を妨げる火曜者はちよとねえ。ホ斗。地面を伝ってくるとも...)。



## 冬合宿の反省感想 松寄林太郎

### 食糧について

合宿の前半は重いと感じたが、結果的には食い延ばしができるほどの食料を上げたことは、よかったと思う。積雪期縦走の場合、軽量化を図るのは重要だけど、食べる量自体は減らさないほうがよいことを実感できた。沈殿中も食糧の残量が十分あることで、安心感があつたのではないかな。しかし軽量化を図る大切さには変わり無く、乾燥野菜を使ったのはよいと思う。肉も乾燥化ができたならよいのではないかな。また、唐辛子、胡椒などの香辛料は冬季の山行には有効だと思った。納豆の食べ過ぎすみませんでした。食い意地が張っていました。

レーション、昼飯の改革は非常によかったと思う。全体を通して今回のエッセンは充実していたのではないのでしょうか。上級生の差し入れは欠かせないですね。来年は酒が増えそうですが???

### 装備について

登攀具の量が減っていたことで、軽量化が昨年より進めていたと思う。水晶岳、烏帽子～蓮華間は行かなかったがフィックス隊に出せる人数を考慮しても妥当であったと思う。火器については、msrのチェックをもっと入念にやるべきだった。(自分がやったので) あれだけ火力に差が出たのは反省すべきだ。また、ボトルを含めて火器の取り扱いにもっと気を使うべきである。テント内での炎上は冬の場合は致命的であることを再認識する必要があると思う。またビーコンを始めとする電池を使う装備に着いては、長期の縦走に行く前には必ず新品のものとかえておいたほうがよいと思った。携帯電話については、これから個人山行においても装備として一考したらどうだろうか。全体を通して装備の管理を日ごろから行うことが必要だと感じた。自分のアイゼン然り、...

### 計画の準備段階

冬合宿が全員で行く年間の総決算の合宿である性格上、偵察については、全員がしておくことが望ましいのではないかな。そうしたほうが、実際に山に入った時の判断でも皆が意見を出し合える雰囲気になるのではないかな。去年の合宿と比較した行動計画表は非常によかったと思う。車のデポについては、雪のことについてもう少し考えておくべき。(自分自身の反省です。)

### 実際の行動について

天気予測、実際の天候を見ての行動判断は的確であったと思う。三侯において雪洞を掘っているときに小屋を開けようと言ったやさしい日高さんの一言。6日に天気を見て行動を即決した岸本さんの決断力。ポイントポイントで最善の判断がされていたのではないかと思います。

### 個人の反省感想

2年生が野川一人という事で、ラッセルなど実際の行動では積極的に動きたい。これが今回の合宿の中での自分の気持ちだった。しかし、地図をしっかり見るなど基本的なところを怠っていた。それは、体力不足から来ることだろう。これから、南アルプスに向けて精進したい。また、生活面に対しては、非常にいいかげんになってしまった。耳の水泡はその際たるものである。車の整備。食糧に対する自分の計画性のなさ。アイゼンのことは情けない。根底にあるのは、普段の下界での生活態度にあるように思う。これを機に少しずつ変えていきたい。厳しい状況になるほど普段のぼろが出てくる。よく実感できた。佐藤は初めての本格的な冬山でよくがんばっていたと思う。野川もいろいろ言ったけど、南アルプスに向けて更がんばりましょう。4年生の皆さん本当にご苦労様でした。合宿中常に皆の意見を聞きながら的確な判断を下す岸本さん。怒らず、心やさしい日高さん。下りてきた時に葛温泉で待っていてくれ、気持ちよく迎えてくださったボンドさん。合宿は計画通りに行くことはできなかったけど、6日間の沈殿、月明かりでの行動など貴重な体験ができた。これからの冬山でも最悪の状況に陥ってもそれを回避できる体力、精神力、技術を日ごろから鍛えて

様々な体験を積んでいきたい。

「バレンタインの日」 まだかみろつぐ  
よしは去年の3月。僕はまだ副寮  
だった。またま寮生が4人集まっ  
た。そこでドライブに行こうという事にな  
僕らは並段よく行く旭山に3トと  
連れて行ったんだ。時刻はPM 10:00だ  
途中まで車で行って、そこから15分の山を  
坂道を男4人で乗しんで僕達は  
に着いたんだ。車に乗らなくて2人帰  
他の3人は夜景に満足したみたいだ。僕も  
一直線だ。おや？車が前方に停まってるぞ？  
狭いけど横を通り抜けよう。僕の  
感覚は冴えていた。通り抜けた瞬間  
「かがりー」という音が鳴り響いた。バス  
で停まる。ナギの車の方を見ると、スライ  
ドが下りた車に寄りかかっていた。僕の車のスライ  
ドは壊れてた。お、しまった。初事故である。  
後に乗ったM君がドライブを半開きに  
たみた。スライドアは開けると10cm  
外にでる。そのど、自分か停まってる  
の所に穴、ニとどしい。処理は保険会  
に任せて、修理工場へ。この車は古か  
い。色々探してみないとない。しよ

・10月13日(水)バレンタインデー

# 冬合宿の反省と感想

3年 横山 輝生

## 全体の反省

- ◎準備 ・ 古らした所もなく良かった。
- ◎エッセン ・ 結果オーライだった所か、やはり冬は食わないと動けなII。  
エッセン係は個数の把握等、管理をしっかりと。
- ◎装備 ・ ロ-ソクが失くなる前に下り来て良かった。  
・ テントポール予備(5人テン)が欲しかった。
- ◎行動 ・ テントポールを折ってしまったこと  
・ 12/31. 1/1の動ける可能性

テントポールについては、テントの設置位置(風が強い場所と分っていた)の問題、またバキバキに折れる前日に、既に1ヶ所破損しており、その時点でしっかりと強風対策をやるべきであった。

天候については12/30~1/1にかけては晴れ間が除き、行動可能であったかもしれない。しかし、つっ込んでいたらガチンコは確実であっただろう。今回の天候のような場合、動ける時に動く、という事は、これからも意識していきたい。

## 個人の反省と感想

今年も、去年に負らす中身の濃い合宿となりました。驚愕の6人で感じたものは各自、様々だろう。今回の合宿では、技術行云々という下りは、冬山の根本、生活技術の大切さを再認識した。テントを設置する位置についても後の状況が変わってくる。衣食住、土木1つとてもおろそかにできない。

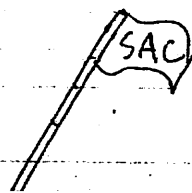
個人的には装備面の雑さが目立った。アイゼンが外木子等、3年目の物も目が悪く形を壊して出た。深く自戒したい。

この合宿で感じた事は、良機、的状況にたまたまなるほど、自分の内にこもるのではなく全体を意識すること。1人1人の心遣いみたいなものが、大切になってくる。単独行ではない。隣には仲間がいるのである。

また、下界では自分達を心配してくれている人がいる。そのありがたさを切に感じた。無事に下りて来られて良かった。

最後に、21世紀も山岳会が飛躍しますように。

knock



## 冬合宿の反省

### ・エッセンについて

昨年度とは打って変わって食料の充実した合宿であったと思う。しかしそれは同時に荷物の重量を増やす原因にもなってしまった。食料の軽量化をもっときつく突き詰めていくべきであった。朝食は連日インスタントの麺類だけであったが、何か代替品があればあきが来ず面白いかもしれない。また朝は紅茶だけではなくミルクやゼリー、コーヒーなども導入してもよいのではないか。

### ・装備について

昨年度と比べると行動中の水分補給の回数がかなり少なかったような気がする。テルモスを各自が保有する個装にしてみたらどうだろうか。火器のMSR、特に最初5人天に入っていた方の調子が悪かった。チェックはしていたので入山後に調子が悪くなったのだと思うが山の中でも簡易的な修理が出来る様技術を学ばなければいけないと思った。

### ・準備について

前回のプレ冬合宿で出た教訓を生かして今回は丸1日、人によってはそれ以上であったと思うが準備日を取って準備をした。その甲斐あって会員一同冬合宿に向けて気を引き締めることができ、よかったと思う。

## 冬合宿を通しての反省・感想

一年生や同期がバツバツと辞めていく中で、寂しさと悲しさ、心細さをかみ締めながら参加した二度目の冬合宿であった。されど楽しい合宿であった。結局悪天に阻まれ行程を最後まで消化することは出来なかったが、10日近い沈殿を経験できたことは今後生きてくると思っている。自分個人の反省としては荒れ狂う荒波の様に落ち着かないモチベーションの維持、行動時の防寒着を増やすことと手足の指先の防寒対策を充実させることに尽きる。継続性のあるトレーニングをこれからは集中的にやろうと思う。

二年 野川謙介

冬合宿の反省

一年  
佐藤 祐樹

<食料>

- ・毎日の朝飯について麺類ばかりだったのが残念だった。ポトフも欲しかった。
- ・夕飯についてはお茶漬け型がおいしかったので今後に取り入れていきたい。

<装備>

- ・赤旗が足りなかった。
- ・故障か電池が冷えていたことによりシーバーが使えなかった。
- ・MSRの調子が悪かった。個人的にMSRの修理方法を憶えたい。

<計画の準備>

- ・BOXの整理整頓をしたらもっと早く準備できるかも・・・

<行動中>

- ・アイゼン、輪カンがはずれることが多かった。
- ・ウンコは小屋の前でしちゃだめだめ。

<個人>

- ・薬が全般的に足りなかった。
- ・MSRの扱いに問題があった。
- ・防寒に関してもっと考えるべきだった。
- ・ザックを背負うのがおそかった。
- ・もっと自主的にうごきたかった。
- ・メガネがくもり、前が見えなくて危険なときがあった。

冬合宿の感想

もう二度とあんな山行は行きたくないというのが正直な感想である。しかしギリギリのかけっぶちを経験をしたことから言えばこの先プラスになるような山行だったのではないかと思う。来年の合宿はここまでひどくはないでしょう。来年に期待。

## 冬合宿反省と感想

花谷 泰広

本当は6年があれこれと口出しするのは良くないと思うのだが、参加した以上、いろいろ書かせてもらいます。

### <食料>

量が豊富だったが多ければいいというものではない。用意周到に見えるのだが、あんまり工夫がなく、もっといろいろ考える余地があったと思う。特に軽量化の面について。行動に差し支えるほどの重い食料はやはり好ましくないと思う。とはいえ腹は減るもの、永遠の課題である。花谷が1年のときに比べたら買、量ともに相当良くなっていて、非常においしかった。酒がもっとあったらなー。

### <装備>

食いのぼしをしていたが燃料に余裕があり、精神的に助かった。これといって無駄はなく、良かったと思う。ただ全体的に装備の劣化が進んでいる。今回のような事態になるとその装備のせいで遭難しかねない。シーバーだって使えなかったかもしれない。食いのぼしを前提とした装備計画を立てるわけにはいかないが、今回のように多少の余裕をもたせるのは長期縦走の場合大切であると感じた。

### <準備段階>

準備があつという間に終わって驚いた。係の人、松本の人には負担がかかるが、事前の準備は重要である。準備から1週間時間が空いていたが、これは良かったと思う。合宿に向けての緊張感が高まる。また、忘れ物とかがなさそうだ。

### <行動全般>

3年生が多く、楽だった。とはいえ、反省も多かったのではないだろうか。アイゼンの件もそうだし、リーダー会の時だってもっと意見するべきである。なんかあつたら責任取る立場なんだからホーっとするべきではない。1・2年生が少なく、多くの仕事をこなさないとイケなかったが、4人とも率先していろいろやっている姿には感心した。体力には個人差があると思うが、今回は大きく差が出た。自分だと思つたものは精進するべきである。上級生は、ぼててはいけない。体調を壊しても気合で治す。野口五郎までの行動がきつかった人はみんな体力不足である。

状況判断。天候判断。今回は今思うとベストだったと思う。ただ、小屋を打ち破つたのは申し訳なかった。この点においては今後十分考えていかなければいけないと思う。こうなつた時点で失敗、もしくは遭難と考えてもいいだろう。

全体的に、1年生が1人だけという状況でヒリヒリした雰囲気はなかったが、気が抜けがちではなかっただろうか。MSR炎上、アイゼン、どれも基本的なミスである。しかしそんなイージーミスが死に直結している。

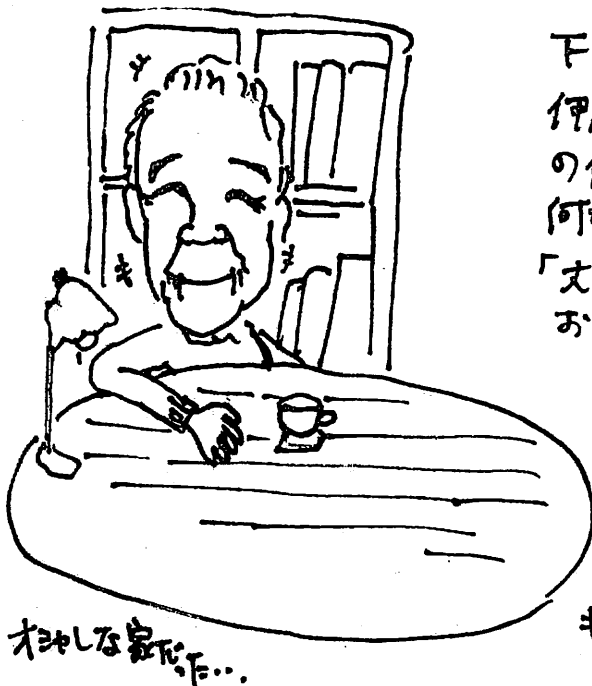
## 合宿を振り返って

久しぶりの重荷に、前半は正直苦しかった。普段から担いでいる人との差を感じ、改めてボツカ力は重要だと思った。久しぶりに長期縦走をやったが、やはり山は行って何ぼである。今回も多くのことを学んだ。特に三俣での沈殿は、日本の冬山をなめていたと反省せざるを得ない。もともと末梢の血行が悪い俺だが、今回はひどい血行障害を起こしてしまった。これを書いている今、本気で歩けない。情けない話だが、自分の弱点は知ってた方がいいものだ。今後の対策が立てられる。・・・がしかし、突に痛い。

あの悪天候で知人が亡くなったが、今回ほどいろいろ考えさせられた登山はない。山を続けていくと常にこういうことは付きまとう。今回は状況が状況だっただけに、反対の立場だった可能性もあった。東京農大もどうやらヤバイらしい。そんな中で自力下山できたことは本当に運が良く、また恵まれていたと思う。三俣から野口五郎に行ったあの日の経験は必ず今後に生きてくるだろう。あの1日の体験だけ見ても、今回参加した意義は大きい。大人数の隊を動かすことはそれだけでリスクが伴うものである。今回のように状況を冷静に判断して、間違った行動を起こさなければうまくいくものである。本当に良い経験をした。

来年も雪の多い山域を考えているようだが、今回の経験を十二分に発揮して、できれば計画を全うしてもらいたい。

合宿運営にあんまり介入しないであつたつもりだが、やりにくかったんだつたらごめんなさい。大学時代最後に楽しい合宿ができて、感謝します。



下山後、三俣山荘のホテである  
伊藤さんに謝罪すべく新橋は四谷  
の御自宅を訪ねる。11月11日中  
何をいわれるかとヒクヒクしていると。

「大変だったね、御苦労様。」との  
お言葉。実に寛大な心遣いの方で  
あった。三俣山荘をめぐり林野行  
と伊藤氏の争いは広く世間  
の知る所であるが、二の方が...と  
思うほどお話をされる人である。  
降り伊藤には御自身の書いた本  
もフェリ本宮に頭の下がる思いであつた。

おかしな寝方..

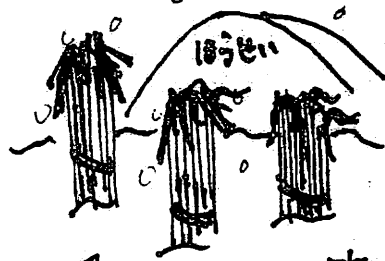
# あんなにんなの イラストコート♪



この胸の  
位置は色紙  
の混入を防ぐため  
「ツケ袋」を作成。  
また見ては顔を  
ホリホリやって...



今回は鼻息により邪魔な  
指環であるが、顔を便に  
便のビ沈殿向き。



赤旗  
ニホー三袋。

コーキ会  
二棟の-が-ソ-シ-ム。  
法政大学との交流は楽い。た。  
ロケット-の-の-赤旗のたはた  
は驚いた。みんなが-シ-で-たはり  
はたはもの同士。  
\*が-シ-... ICI 柳-シ-ルの 橋-大-型-が-シ-。



うーん  
うーん



エッ!! と、その心は...  
おさねの目高の使明。  
-時はどうなるか  
今汗毛のた、た...





「一位の『工の本の読書権』という  
沈黙中の大食民は、うす味を  
圧倒的存続を見せつけ、み  
なりの世を望まざらば工の本  
を独占していた。



「塩コショウが少る!」という  
つら冬命館の万者E真に衝  
た食糧低の野川は今回大  
量の塩コショウを投入。  
「物事。」「程度、これが  
ある死?」はしめは惨  
々文句を言わねるが、後年の  
食いの口にして大塩コショウ。ニク  
うーま。



ロ-ツの序は6次目。度更る小屋  
の中で行われた「食いのしりとり」  
は自分で自分のクビを切るも  
の死った。特に湯気の立つ  
メニューには自然と手取りが  
止た。



空に火を燃らす用いず、ボルをばらして  
ニコボリを作成。小屋の隅が小用  
スグースと香る。ニコボリは  
壁に1口、隅の1口のスグース  
の裏上で行われ、ク-ルは1口  
もこの時ばかりは行方からニコ  
ボリは11ら11らしていた。

たてええ荷物の重い  
名物は、花浴せは5kgは  
あるうめと思われるメウ機  
材を特参。服小下日は  
ヒマを見つけてはニホッ  
てていた。



たてに喜ばい  
カクウ  
バウウ



毎夜恒例のいごん合  
は毒前のおサニシヨニ  
で勝負のクダリがセカ  
目。干し桶は、トーマス  
ティーンがベスト商品  
だった。



合宿の後半、<sup>10</sup>100の  
たいは目尻までほ  
る勢いでいゆた。  
個体にはそれは目出度  
は不用かと思われるはこ  
てあ、た。

## 編集後記

沈殿中に日高と紙将棋を作った。将棋をしたのは実に 10 年ぶりだった。小さいころ父親相手に一度も勝てなかった思い出が強く将棋はそれ以来嫌いだった。しかし久しぶりにやるとその奥の深さに目覚め、下山後、電気屋に行きパソコンの将棋ソフトを購入。しかしコンピューターは強すぎる。日高とは違う…。また将棋が嫌いになりそう…。

岸本

ただいま、岸本さんの家で編集作業中。普段は、伊那人なので編集作業は新鮮でした。松本の方々いつもご苦労様です。これからは空きスペースにイラスト書くぞーさん。

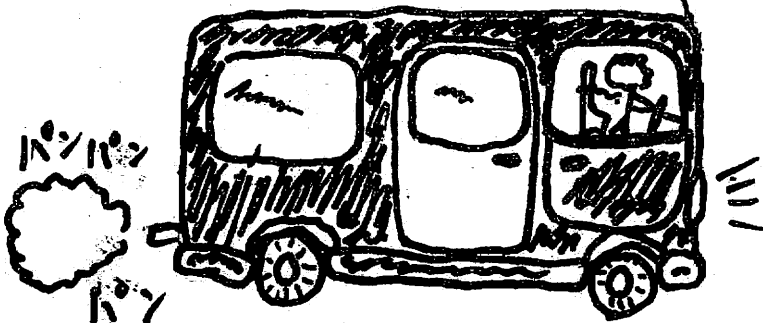
松寄

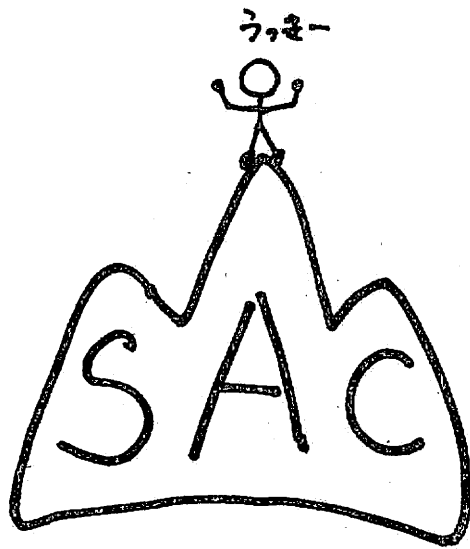
(P33のつぎ↓)

2日後、電話がかかってきた。修理工場からだった。「ドアは見つかったんだけどね。色が白なんだよねー。」僕の車はぐれーだった。「ドアと工賃で1万5千。ドアの塗装で+2万かかるよ。」たけー。+2万?なんじゃそりゃ。「わかりました。塗装は無しでお願いします。」2日後、僕は車を迎えに行ったんだ。久しぶりだー。ごめんよ。と触りながら事故つ方へ回り込んだらあらびっくり。ドアが白いじゃない。すでに塗装無しのことを僕はわすれてたんだ。1万5千を払って寮へ戻った。その後マフラーが壊れ爆音に。その他もろもろ色な音がする。でもパンダアトレーは今日も19号を走ってるんだ。

日高

みんなの人気者 パンダアトレー





編集：岸本  
日高  
松奇  
印刷：松本で  
表紙：野川西伯